

第3学年

教養系教育・基礎科学教育科目

歯科医療管理学	126
社会歯科学	128
歯科医療人間学Ⅲ	129

生命科学教育科目

口腔生化学Ⅱ	131
口腔生化学実習	133
口腔病理学	134
口腔病理学実習	137
口腔感染免疫学Ⅱ	138
口腔感染免疫学実習	139
歯科薬理学Ⅱ	140
歯科薬理学実習	142
生体材料・歯科材料学Ⅱ	143
生体材料・歯科材料学実習	145
口腔衛生学	146
口腔衛生学実習	148

口腔科学教育科目

保存修復学Ⅰ	149
冠橋義歯補綴学Ⅰ	151
有床義歯補綴学Ⅰ	152
有床義歯補綴学Ⅰ実習	154
口腔外科学Ⅰ	155
口腔内科学	157
高齢者歯科学Ⅰ	159
歯科放射線学Ⅰ	161
法 歯 学	162
総合臨床医学	163
総合演習 3 D	164

歯科医療管理学（後期・1単位）

科目責任者：瀬川 洋（衛生・教授）

科目担当者：①瀬川 洋（衛生）、②大橋 明石（衛生）

1. 科目の概要

歯科医療管理学（Dental practice administration）は、歯科医療を社会に適応するための環境および条件への考察を理論管理論で捉え、それを基本とする手段・行動を実践管理論でとらえる医療の管理学で歯科医療を社会に提供する社会歯科学系の学問です。そこで、本科目では質の高い歯科医療サービスを安定して供給し、患者満足度を高めることにより、地域社会に貢献していくための実践的知識、医療現場において役立つ経営論を総合的に講義する。

2. 一般目標

安心・安全な良質の歯科医療を提供するために必要な歯科医療管理の基礎的事項を理解して、実践できるようにする。

3. 到達目標

- 1) 歯科医療管理の概要について説明できる。
- 2) 診療記録・情報の意義および法令で定められた取り扱いについて説明できる。
- 3) 医療安全確保、医療事故の回避及び発生後の原因追及について説明できる。
- 4) 感染の予防と管理について説明できる。
- 5) 医療保障制度について説明できる。
- 6) ライフステージに応じた食育について説明できる。
- 7) 歯科診療の場における禁煙指導と支援について説明できる。
- 8) 歯科診療所の開設について説明できる。
- 9) 歯科医療経営管理および人事管理について説明できる。
- 10) 医療連携について説明することができる。

4. 履修の進め方

予習：シラバスで次回の講義内容を把握するとともに教科書のページが示されている講義項目については予習する（30分）。

講義：講義形式で教本に準じてスライドと資料を用いて履修する。

復習：授業直後は授業資料提示システムを事後の学習に活用し、質問に関してはオフィスアワーや担当教員のメールアドレスを有効に活用して疑問点の解消に努めること（30分）。

5. 履修の準備（参考書）

歯科医療管理学は安全、安心、信頼の歯科医療を提供する重要事項を履修することからリスクマネジメントを理解するため、平成28年度改訂版歯学教育モデル・コア・カリキュラムの社会の変遷への対応において災害時の歯科医師が関わる対応の必要性が盛り込まれていることから2つの参考書を提示する。

「判例からみた医療安全 歯科医療に求められる戦略的なリーガルリスクマネジメント」第1版第1刷 わかば出版 2014

「災害歯科学」医歯薬出版 2018

6. 評価方法

定期試験で評価する。

7. 教本

歯科医療管理 医療の質と安全確保のために 第2版 医歯薬出版株式会社 2018

8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/6	歯科医療管理とは	歯科医療管理学の定義から歯科医療管理について理解する	A-3-①②③ / 総-I-3)	①
2	9/13	歯科医療の法的性格	歯科医療の法的意義について理解する	A-3-①②③ / 総-I-3)	②
3	9/20	医療情報リテラシー	診療記録・情報の意義および法令で定められた取り扱いについて理解する	B-4-3) / 必-5-ア,イ	〃
4	9/27	歯科医療における安全管理	医療安全確保に関する法令について再確認する	A-5-1) / 必-2-ウ	①
5	10/4	医療事故の防止	医療事故の回避策、発生後の原因追及について理解する	A-5-2) / 必-4-イ	〃
6	10/11	医療裁判	医事紛争の原因、防止および解決について理解する	A-5-2) / 必-4-エ	〃
7	10/18	院内感染対策	医療保障および医療保険制度の概要について理解する	A-5-3) / 必-4-ウ	②
8	10/25	医療保障制度	医療保障および医療保険制度の概要について理解する	B-2-2) / 総-I-6	〃
9	11/1	食育と食の支援	ライフステージに応じた食育について理解する	E-1-6) / 必-3-ク	①
10	11/8	禁煙指導・支援	禁煙指導と支援による歯周疾患や口腔がん等の予防について理解する	E-1-6) / 必-3-ク	〃
11	11/15	歯科診療所の開設	開業時の開設に関わる手続と法的事項について理解する	B-2-2) / 総-I-3	②
12	11/22	歯科医療経営管理	歯科医療経営に必要な法律と基礎的事項について理解する	A-7-3) / 必-16-ア～エ	①
13	11/29	医療の質の確保	医療の質と患者満足度について理解する	A-3-① / 必-4-ア	②

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
14	12/6	かかりつけ歯科医と専門医	かかりつけ医の機能と経営について理解する	B-2-2) / 総-I-4	②
15	12/13	医療連携	チーム歯科医療および地域連携クリニカルパスについて理解する	A-7-3) / 総-I-3	①

社会歯科学 (前期・1単位)

科目責任者：廣瀬 公治 (衛生・教授)

科目担当者：①廣瀬 公治 (衛生)，②並木 一郎 (非常勤)

1. 科目の概要

社会歯科学は、歯科医師が歯科医療と保健指導を実施するための制度を学ぶ学問である。本科目では、歯科医師として当然具備すべき法律の知識や社会情勢の変遷について学ぶ。

2. 一般目標

歯科医師として稼働するのに必要な法的知識と社会保障制度について学び、社会の変化やニーズに対応できる基礎的能力を習得する。

3. 到達目標

- 1) 我が国の行政機構を説明できる。
- 2) 歯科医師の刑事・民事・行政責任を説明できる。
- 3) 歯科医療関連法規を説明できる。
- 4) 社会保障制度を説明できる。
- 5) 医療保険制度と国民医療費を説明できる。
- 6) 我が国の社会構造の変化に伴う歯科医療・保健の変化を説明できる。

4. 履修の進め方

講義形式で板書と教科書を使用して履修する。

5. 履修の準備 (参考書)

本科目は、中等教育課程 (中学・高校) での公民、政治経済あるいは現代社会が基礎となっている。中等教育で用いた教科書等で関連領域を予習することを勧める。また、保健・医療・福祉を取り巻く環境は日々変遷するので、各種報道に留意すること。なお授業資料提示システムに過去の試験問題を公開しているので参考とされたい。

6. 評価方法

中間試験、定期試験で評価する。

7. 教本

石井拓男 他 編 スタンダード社会歯科学 第7版 学建書院

8. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/9	社会歯科学概論	歯科医師の責務と倫理	A-1-1) / 必1-ア, 必2-ウ	①
2	4/16	医療と法律	歯科医療と法令	A-1-3), A-6-2), B-2-1) / 必2-キ	〃
3	4/23	医療と法律	歯科医師法-1	B-2-1) / 必2-イ	〃
4	5/7	医療と法律	歯科医師法-2 歯科衛生士法, 歯科技工士法	B-2-1) / 必2-イ	〃
5	5/14	医療と法律	医療法	A-7-1), B-2-1) / 必2-ウ, 3-イ	〃
6	5/21	医療と法律	医療法, 歯科口腔保健の推進に関する法律	B-2-1) / 必2-イ, 必4-イ	〃
7	5/21	医療と法律	医療関連職種等法律	B-2-2) / 必3-ア, イ, 必16-オ, 総I-6	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
8	5/21	社会保障制度	社会保険制度 (概要・医療)	B-2-2) / 総I-4	①
9	5/28	中間試験	1～7回講義範囲		
10	6/4	社会保障制度	社会保険制度 (年金・介護)	B-2-2) / 必2-イ, 総I-1, 4	〃
11	6/11	社会保障制度	社会保険制度 (介護・雇用・労災) 社会保険制度 (生活保護, 社会福祉)	B-2-2) / 必2-イ, 総I-4	〃
12	6/18	国民医療費	国民医療費	B-2-2) / 必2-イ, 総I-4	〃
13	6/25	医療の需給	医療従事者, 医療機関等	B-4-2) / 総I-1	〃
14	7/2	地域保健制度 国際保健協力	地域保健概要 (母子, 学校, 成人・老人, 産業), JICA, ODA, WHO, ILO	A-7-1), A-7-2) / 必4-イ, 総I-1, 2, 5	〃
15	7/9	厚生労働行政	厚生労働行政と歯科医師のかかわり	A-7-1), B-2-2) / 総I-1, 2, 4	②

歯科医療人間学Ⅲ（通年・2単位）

科目責任者：清野 晃孝（病院・准教授）

科目担当者：①清野 晃孝（病院）、②山崎 信也（麻醉）、
③瀬川 洋（衛生）、④中川 敏浩（組織）、
⑤長岡 正博（薬理）、⑥竜 立雄（矯正）、
⑦吉田いくよ（非常勤）、⑧鈴木 俊子（非常勤）、
⑨本多 真史（日本語）

1. 科目の概要

歯科医療人間学（Dental Practice Human Science）は、本学歯学部目的である「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師の養成」を実践する学問であり、高度専門職業人（プロフェSSIONナル）としての歯科医師である前に社会人としての素養、教養および社会適応能力を高揚し、自らのホスピタリティマインドに加えて、患者中心の医療を全人的に捉えるため、身体面、心理面、社会面、倫理面の各要素を総合的かつ包括的に理解し、「歯科医療の安全・安心・信頼の文化」を醸成することにある。

2. 一般目標

人間性豊かな優れた歯科医師となるために、大学で学ぶ目的を明確化し、歯学医療現場にふれ、基本的なコミュニケーションや日常習慣の重要性を認識する態度、知識および技能を修得する。

3. 到達目標

- 1) 医療現場でのルールを理解する。
- 2) 医療人として謙虚な態度を示す。
- 3) 患者の訴えを正確に聞き取る。
- 4) 基本的な会話で診療室情報を尋ねる。
- 5) OSCに関わる基本的事項を理解する。

4. 履修の進め方

講義形式で教本に準じてスライドと資料を用いて履修する。

5. 履修の準備（参考書）

事前にシラバスで内容を確認する。また、人と接する時は状況を把握し、意識をして対応することを日頃から心がける。参考書や参考資料は特になし配付したプリント活用して自然に実践できるように日々訓練をする。

6. 評価方法

ビデオ撮影や記述式試験により評価を行う。

7. 教本

特になし

8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/5	オリエンテーション	3年次の歯科医療人間学の目的を概説する	A-1-1) / 必-1・2	① ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨
2	4/12	ある医療事故から (K J 法)	実際に起こった歯科医療事故から検証し、防止策を探る	A-6-3) / 必-2-オ	① ④ ⑥
3	4/19	ある医療事故から (K J 完成)	実際に起こった歯科医療事故から検証し、防止策を探る (発表)	A-6-3) / 必-2-オ	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
4	4/26	3-A 口頭表現・傾聴・アサーションの実践 I	コミュニケーションの復習と実践・演習	A-4-1) / 必-12	⑨
4	4/26	3-B 聴くこと・伝えること I	如何に正確に伝わるか、伝えるか	A-4-1) / 必-12	⑦ ⑧ ⑤
5	5/10	3-A 聴くこと・伝えること I	如何に正確に伝わるか、伝えるか	A-4-1) / 必-12	〃
5	5/10	3-B 口頭表現・傾聴・アサーションの実践 I	コミュニケーションの復習と実践・演習	A-4-1) / 必-12	⑨
6	5/17	3-A 聴くこと・伝えること II	如何に正確に伝わるか、伝えるか	A-4-1) / 必-12	⑦ ⑧ ⑤
6	5/17	3-B 口頭表現・傾聴・アサーションの実践 II	好感度、信頼度アップの会話とは？	A-4-1) / 必-12	⑨
7	5/24	3-A 口頭表現・傾聴・アサーションの実践 II	好感度、信頼度アップの会話とは？	A-4-1) / 必-12	〃
7	5/24	3-B 聴くこと・伝えること II	如何に正確に伝わるか、伝えるか	A-4-1) / 必-12	⑦ ⑧ ⑤
8	5/31	3-A パワーパフォーマンスを身に付けよう I	印象的な非言語コミュニケーションを会得する	A-4-1) / 必-12	〃
8	5/31	3-B 医療面接に向けて ①自己PR	医療面接での会話と重要ポイントについて	A-4-1) / 必-12	⑨
9	6/4	3-A 医療面接に向けて ①自己PR	医療面接での会話と重要ポイントについて	A-4-1) / 必-12	〃
9	6/4	3-B パワーパフォーマンスを身に付けよう I	印象的な非言語コミュニケーションを会得する	A-4-1) / 必-12	⑦ ⑧ ⑤
10	6/7	3-A パワーパフォーマンスを身に付けよう II	ソーシャルスキルを会得する	A-4-1) / 必-12	〃
10	6/7	3-B 医療面接に向けて ②自己PR	高感度・信頼度を上げるコミュニケーションの実践	A-4-1) / 必-12	⑨
11	6/14	3-A 医療面接に向けて ②自己PR	高感度・信頼度を上げるコミュニケーションの実践	A-4-1) / 必-12	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
11	6/14	3-B パワーパフォーマンスを身に付けようII	ソーシャルスキルを会得する	A-4-1) / 必-12	⑦ ⑧ ⑤
12	6/21	ある医療事故から (K J 法発表)	実際に起こった歯科医療事故から検証し、防止策を探る (発表)	A-6-3) / 必-2-オ	① ④ ⑥
13	6/28	ある医療事故から (二次元展開法作成)	実際に起こった歯科医療事故を二次元展開法により検証し、防止策を探る	A-6-3) / 必-2-オ	〃
14	7/5	ある医療事故から (発表)	実際に起こった歯科医療事故から検証し、防止策を探る (発表)	A-6-3) / 必-2-オ	〃
15	7/12	形成的評価	形成的評価試験を行う	関連範囲	① ③ ⑧ ⑨
16	9/6	OSCE課題体験演習	OSCE課題に関連する事項について演習を実施する	F-3-1 / 必-12	① ② 他
17	9/13	OSCE課題体験演習	OSCE課題に関連する事項について演習を実施する	F-3-1 / 必-12	〃
18	9/20	OSCE課題体験演習	OSCE課題に関連する事項について演習を実施する	F-3-1 / 必-12	〃
19	9/27	OSCE課題体験演習	OSCE課題に関連する事項について演習を実施する	F-3-1 / 必-12	〃
20	10/4	OSCE課題体験演習	OSCE課題に関連する事項について演習を実施する	F-3-1 / 必-12	〃
21	10/11	OSCE課題体験演習	OSCE課題に関連する事項について演習を実施する	F-3-1 / 必-12	〃
22	10/18	OSCE課題体験演習	OSCE課題に関連する事項について演習を実施する	F-3-1 / 必-12	〃
23	10/25	OSCE課題体験演習	OSCE課題に関連する事項について演習を実施する	F-3-1 / 必-12	〃
24	11/1	OSCE課題体験演習	OSCE課題に関連する事項について演習を実施する	F-3-1 / 必-12	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
25	11/8	OSCE課題体験演習	OSCE課題に関連する事項について演習を実施する	F-3-1 / 必-12	① ② 他
26	11/15	OSCE課題体験演習	OSCE課題に関連する事項について演習を実施する	F-3-1 / 必-12	〃
27	11/22	OSCE課題体験演習	OSCE課題に関連する事項について演習を実施する	F-3-1 / 必-12	〃
28	11/29	OSCE課題体験演習	OSCE課題に関連する事項について演習を実施する	F-3-1 / 必-12	〃
29	12/6	OSCE課題体験演習のまとめ	OSCE課題に関連する事項について演習を実施する	F-3-1 / 必-12	〃
30	12/13	形成的評価	OSCE課題に関連する事項について演習を実施する	F-3-1 / 必-12	〃

口腔生化学Ⅱ（前期・2単位）

科目責任者：加藤 靖正（生化・教授）

科目担当者：①加藤 靖正（生化），②前田 豊信（生化），
③鈴木 厚子（生化），④半田 慶介（非常勤）

1. 科目の概要

生化学は代謝という化学的な側面から生体の成り立ちを理解する学問である。暗号化され細胞の核に保存されている遺伝情報は基本的にタンパク質の一次構造でしかないが、生体には脂質や糖質などたくさんの物質から成り立っている。遺伝情報を司る核酸そのものさえ、糖やアミノ酸、リン酸などから合成されているのである。口腔生化学Ⅱでは、歯科・口腔領域に特化した生化学について専門的に学ぶ。また、癌のやメタボリックシンドロームなど社会的に問題となっている病態について生化学的側面から理解を深めるとともに、遺伝学的一端として、先天性疾患について臨床科目での講義に先立ち、これらの発症原因となっている障害遺伝子の本来の役割などをつづじて病態との関連性に対する理解を深める。

2. 一般目標

歯科・口腔領域として、細胞外マトリックス分子、骨、軟骨、歯、唾液、及び齶蝕について焦点を絞り、構造と機能について学修する。また、染色体異常、結合組織の異常、色素沈着のみられる疾患、新生児のマススクリーニング対象疾患などについて焦点を絞り、遺伝形式と病態の基本的事項について学ぶ。

3. 到達目標

- 1) DNAの複製，セントラルドグマについて説明できる。
- 2) 細胞外マトリックス分子の構造と機能について説明できる。
- 3) 硬組織の構造と機能を説明できる。
- 4) 血清カルシウムのホメオスタシスについて説明できる。
- 5) 唾液・プラーク・齶蝕の分子機構について説明できる。
- 6) 細胞内情報伝達機構について説明できる。
- 7) 遺伝病・遺伝子病の成因について例を挙げて説明できる。
- 8) 生活習慣病の成因について説明できる。

4. 履修の進め方

予習：教科書（該当箇所のページ）を読み、講義内容の概略を把握するとともに疑問点を見出しておく。

講義：板書やパワーポイントを使用した解説を聴講し、予習内容の確認と知識の整理を行うとともに、予習中に見出された疑問点を解決する。

復習：学修内容を整理するとともに、事前に生じた疑問点について解決したかを確認する。

その他：新たに生じた疑問点などについては、教科書の利用や教員への質問等により早期に克服する。

5. 履修の準備（参考書）

口腔生化学 第5版（医歯薬出版）も参考に、講義の項目に該当する箇所を把握する。

6. 評価方法

定期試験にて65点以上を合格とする。

7. 教本

スタンダード生化学・口腔生化学 第3版（学研書院）

8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/6	細胞外マトリックス分子Ⅰ	コラーゲンの構造，分布，合成，壊血病	C-2/必5-A	①

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
2	4/6	細胞外マトリックス分子Ⅱ	弾性繊維・エラスチン・フィブリリン，Marfan症候群	C-2/必5-A	①
3	4/13	細胞外マトリックス分子Ⅲ	細胞接着性糖蛋白質，種類と分布，	C-2/必5-A	〃
4	〃	細胞外マトリックス分子Ⅳ	RGD配列，細胞外マトリックス受容体，インテグリン	C-2/必5-A	〃
5	4/20	細胞外マトリックス分子Ⅴ	細胞外マトリックス分子の分解(MMP, その他のプロテアーゼ)	C-2/必5-A	〃
6	〃	細胞外マトリックス分子Ⅵ	グリコサミノグリカンとプロテオグリカン	C-2/必5-A	〃
7	4/23	硬組織Ⅰ	石灰化機構① 無機質：ヒドロキシアパタイト，石灰化機構の3つの説	C-2/必5-A， 総Ⅱ-9-ウ	〃
8	〃	硬組織Ⅱ	石灰化機構② 有機質：コラーゲン性石灰化，象牙質・エナメル質の石灰化	C-2/必5-A， 総Ⅱ-9-ウ	〃
9	4/27	硬組織Ⅲ	骨形成（膜性骨化・軟骨性骨），軟骨細胞の分化	C-2/必5-A， 総Ⅱ-9-ウ	②
10	〃	硬組織Ⅳ	骨芽細胞の分化	C-2/必5-A， 総Ⅱ-9-ウ	〃
11	5/11	硬組織Ⅴ	破骨細胞の分化，生理的骨吸収，炎症性骨吸収，骨のリモデリング	C-2/必5-A， 総Ⅱ-9-ウ	〃
12	〃	血清カルシウム濃度の調節機構Ⅰ	血清カルシウム濃度の調節機構	C-2/必5-A， 総Ⅱ-9-ウ	〃
13	5/18	血清カルシウム濃度の調節機構Ⅱ	血清カルシウム濃度の調節機構の破綻：（原発性・続発性）副甲状腺機能亢進症	C-2/必5-A， 総Ⅱ-9-ウ	〃
14	〃	唾液腺と唾液	唾液腺の種類，役割	C-2/必5-A， 総Ⅱ-6-オ	〃
15	5/25	唾液の機能	唾液の成分と機能，排泄作用	C-2/必5-A， 総Ⅱ-6-オ	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
16	5/25	ペリクル・プラーク	組成と機能	C-2, E-3/ 必5-ア, イ, 総II-6	③
17	6/1	齶蝕I	齶蝕の成因, プラーク(グル ルカン, フル クタン), 酸 産生	E-3/必5-イ, 総II-7-イ	④
18	〃	齶蝕II	アパタイトの 崩壊, ステ ファン曲線, 再石灰化, 酸 抵抗性, 軟化 象牙質	E-3/必5-イ, 総II-7-イ	〃
19	6/8	細胞間コミュニ ケーション I	分泌様式細胞 内情報伝達機 構①(細胞内 受容体)	C-2/必5-ア, 総II-1	①
20	〃	細胞間コミュニ ケーション II	細胞内情報伝 達機構②(三 量体Gタンパ ク質共役型受 容体)	C-2/必5-ア, 総II-1	〃
21	6/15	細胞間コミュニ ケーション III	細胞内情報伝 達機構③(チ ロシンキナー ゼ型受容体, セリンスレオ ニン型受容体)	C-2/必5-ア, 総II-1	〃
22	〃	細胞の老化	テロメアとテ ロメアーゼ	C-2/必5-ア	〃
23	6/22	細胞周期の制 御機構	E2F, サイクリ ン, p53, RB	C-2/必5-ア	〃
24	〃	細胞周期とア ポトーシス	TNF α , FasL, カスパーゼ, CAD, プログ ラム細胞死	C-2, 5/ 必5-ア	〃
25	6/29	癌I	癌の特性, DNAの修復 機構, 発癌機 構, 癌遺伝子, 癌抑制遺伝子	C-2, 5/ 必5-ア, 7-ア	〃
26	〃	癌II	アポトーシス の回避, 老化 の回避, 転移 機構	C-2, 5/ 必5-ア, 7-ア	〃
27	7/6	遺伝性疾患と 代謝異常症I	遺伝, 染色体 異常症, 色素 沈着を伴う疾 患	C-2, 5/ 必5-ア, 7-ア	〃
28	〃	遺伝性疾患と 代謝異常症II	結合組織の疾 患, 血友病, サラセミアと 鎌状赤血球貧 血	C-2, 5/ 必5-ア, 7-ア	〃
29	7/13	生活習慣病の 成因基盤I	メタボリック シンドローム (診断基準, 成 因), 摂食ホル モン	C-2, / 必4-ア, 5-ア	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
30	7/13	生活習慣病の 成因基盤II	糖尿病(診断 基準, 成因, 病 態), 動脈硬化, 痛風,	C-2, / 必4-ア, 5-ア	①

口腔生化学実習（前期・1単位）

科目責任者：加藤 靖正（生化・教授）

科目担当者：①加藤 靖正（生化），②前田 豊信（生化），
③鈴木 厚子（生化），④原元 信貴（非常勤）

1. 科目の概要

生化学は、物質代謝の面から生命の成り立ちを理解する学問である。そこから発生した分子生物学や遺伝子工学などは、核酸を主として扱うことに特化した学問で、生化学との深い関わりの中で発展してきた。ヒトゲノム計画終了により、染色体上の遺伝子配列が全て決定されたのも、分子生物学や遺伝子工学といった分野の進歩が大きく寄与している。そこで、本実習では、生体を構成する基本的な物質、医学的に重要な血液検査項目、さらに遺伝子の解析方法まで幅広く実体験してもらい、座学での知識をさらに深めることを目的としている。

2. 一般目標

- 1) 測定機器の取り扱い方を習得する。
- 2) 測定法の原理と特異性を理解する。
- 3) 解析方法の理論と技術を習得する。

3. 到達目標

- 1) あああ測定機器の基本的な取り扱いができる。
- 2) 生体構成物質の基本的な取り扱いができる。
- 3) 測定法の原理を説明できる。
- 4) 測定した結果をまとめることができる。
- 5) 測定した値の意味を考察できる。

4. 履修の進め方

予 習：教科書の該当箇所を読み、当日の実習内容に関連した項目を把握しておく。

実 習：配布されるプリントに従って実習を行い、予習内容の知識を用いて考察する。

復 習：学修内容を整理するとともに、疑問点などについては、教科書の利用や教員への質問等により早期に克服する。

5. 履修の準備（参考書）

口腔生化学 第5版（医歯薬出版）も参考に、当日の実習内容に関連する項目の基礎知識を得ておく。

6. 評価方法

筆記による実習内容と関連知識を問う試験3回の平均（70%）とレポート（30%により評価し、65点以上を合格とする。項目ごとに配布された記入用紙に、実習中に記載し即日提出する。記載項目がすべて網羅されていることをミニマムクワイアメントとする。

7. 教本

生化学実習（医歯薬出版）、スタンダード生化学・口腔生化学 第3版（学研書院）

8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1 2 3	4/11	基本操作	生化学実習の諸注意, 器具の取扱い方, 測定機器の取扱い方		① ③
4 5 6	4/18	タンパク質Ⅰ (血清蛋白質)	血清蛋白質の分離とその意義	C-2/必5-ア	〃
7 8 9	4/25	タンパク質Ⅱ (酵素)	AST, ALT 活性の測定その意義	C-2/必5-ア	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
10 11 12	5/7	糖	血糖の測定とその意義	C-2/必5-ア	① ③
13 14 15	5/9	解説講義	糖, 蛋白質, 酵素 (I, II) についてのまとめ	C-2/必5-ア	〃
16 17 18	5/16	振り返り学習 ----- 試験①	自学習 (知識の整理) ----- 学習効果を確認する		〃
19 20 21	5/23	石灰化Ⅰ	アルカリホスファターゼの活性測定	C-2/総Ⅱ-9	〃
22 23 24	5/30	石灰化Ⅱ	硬組織の無機質 (CaとPの定量)	C-2/総Ⅱ-9	〃
25 26 27	6/6	唾液	アミラーゼ活性の測定とその意義	C-2/必5-ア, 総Ⅱ-6	〃
28 29 30	6/13	解説講義	石灰化 (I, II), 唾液についてのまとめ	C-2/必5-ア, 総Ⅱ-6, 9	〃
31 32 33	6/20	振り返り学習 ----- 試験②	自学習 (知識の整理) ----- 学習効果を確認する		〃
34 35 36	6/27	核酸Ⅰ	DNAの取り扱い方。PCR法	C-2/必5-ア	① ④
37 38 39	7/2	核酸Ⅱ	アメロゲニン遺伝子の制限酵素切断部位の相違を利用した性別鑑定	C-2/必5-ア	〃
40 41 42	7/4	解説講義	核酸 (I, II) についてのまとめ	C-2/必5-ア	① ③
43 44 45	7/11	振り返り学習 ----- 試験③	自学習 (知識の整理) ----- 学習効果を確認する		① ③

口腔病理学 (通年・4単位)

科目責任者：伊東 博司 (病理・教授)

科目担当者：①伊東 博司 (病理)，②遊佐 淳子 (病理)，
③櫻井 裕子 (病理)，④高田 隆 (客員)

1. 科目の概要

口腔病理学は病気の原因、経過およびその結果生じる形態的・機能的变化を学ぶことによって、病気の本質を理解することを目的としている。口腔病理学の前期講義では、病理学総論として、細胞傷害と細胞の適応現象、代謝障害、循環障害、炎症、免疫異常、遺伝性疾患と奇形、および腫瘍について講義する。病理学総論の後には、齶蝕を初めとする歯牙硬組織疾患、歯髄、根尖部歯周組織、辺縁部歯周組織、顎骨、口腔粘膜、唾液腺等の顎口腔領域に発生する疾患について、分類、原因、病理発生、臨床像および病理組織像などを講義する。口腔病理学は臨床歯学に深く関連することから、臨床歯学を学ぶ前に口腔病理学を充分理解しなければならない。

2. 一般目標

- 1) 疾病を総合的に理解するために病理学総論として、細胞の傷害と細胞の適応現象、代謝障害、循環障害、免疫病理、炎症、腫瘍、遺伝性疾患と奇形について概略を学ぶ。
- 2) 歯科臨床における疾病を理解するために、病理学各論(口腔病理学)として、齶蝕をはじめとする歯牙硬組織疾患、歯髄、根尖部および辺縁部の歯周組織、顎骨、口腔粘膜、唾液腺等の顎口腔領域全般における疾患について、分類、原因、病理発生、臨床像および病理組織像の特徴などを学ぶ。

3. 到達目標

- 1) 細胞傷害と細胞の適応現象を説明する。
- 2) 代謝障害の病変を説明する。
- 3) 循環障害の病変を説明する。
- 4) 炎症の原因と分類を説明する。
- 5) 免疫異常による病変を説明する。
- 6) 遺伝性疾患の病変を説明する。
- 7) 腫瘍の特徴と病変を説明する。
- 8) 顎口腔領域疾患の分類、原因および病変を説明する。

4. 履修の進め方

スライド投影を主体とした講義を行う。また、講義プリントを毎回配布する。

5. 履修の準備

第2学年の解剖学・組織学・感染免疫学で履修した事項で、口腔病理学各回講義に関連することを事前に復習する。

事前学習 (30分)、事後学習 (1時間)

(参考書)

田村 浩一 著 「図解入門 よくわかる病理学の基本としくみ」 秀和システム 2011年

高木 實 監修 「口腔病理アトラス」第3版 文光堂 2018年

6. 評価方法

前期、後期の定期試験で評価する。

7. 教本

坂本彦彦ら 編 「標準病理学」第5版 医学書院 2015年

下野正基ら 編 「新口腔病理学」第2版 医歯薬出版 2018年

8. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/9	病理学概論, 病因論	病理学とは何かについて説明し、内因と外因について述べる	C-5-1) / 総 III 1-A	①
2	4/9	細胞傷害(I)	細胞傷害のメカニズムと細胞傷害によって生じる変性について述べる	C-5-2) / 総 III 1-I	〃
3	4/11	細胞傷害(II)	脂肪変性、硝子変性、石灰変性、萎縮を説明する	C-5-2) / 総 III 1-I	〃
4	4/11	細胞死	ネクロシスとアポトーシスの形態学的特徴を説明する	C-5-2) / 総 III 1-I	〃
5	4/18	細胞の適応現象(I)	刺激に対する細胞の適応現象である肥大と過形成を説明する	C-5-3) / 総 III 1-U	〃
6	4/18	細胞の適応現象(II)	刺激に対する細胞の適応現象である化生を説明する	C-5-3) / 総 III 1-U	〃
7	4/25	組織の再生と修復	細胞の分裂周期と組織の再生、修復を説明する	C-5-3) / 総 III 1-U	〃
8	4/25	肉芽組織と創傷治癒	肉芽組織の構成要素、役割、および創傷治癒、器質化を説明する	C-5-3) / 総 III 1-U	〃
9	5/9	物質代謝障害	脂質、タンパク質、糖質、色素の代謝異常に基づく疾患を概説する	C-2-1) / 総 III 1-I	〃
10	5/9	循環障害(I)	虚血、充血、うっ血の徴候、原因、転帰を説明する	C-5-4) / 総 III 1-E	〃
11	5/16	循環障害(II)	出血の原因、種類、転帰を説明する	C-5-4) / 総 III 1-E	〃
12	5/16	循環障害(III)	血栓症、塞栓症、梗塞を説明する	C-5-4) / 総 III 1-E	〃
13	5/23	循環障害(IV)	水腫とショック、高血圧を説明する	C-5-4) / 総 III 1-E	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
14	5/23	炎症(I)	炎症の定義, 原因, 分類を説明する	C-5-5) / 総 III 1-オ	①
15	5/30	炎症(II)	急性炎症および慢性炎症の特徴を説明する	C-5-5) / 総 III 1-オ	〃
16	5/30	炎症(III)	滲出性炎の各型を説明する	C-5-5) / 総 III 1-オ	〃
17	6/6	炎症(IV)	肉芽腫性炎の特徴と, その代表例を説明する	C-5-5) / 総 III 1-オ	〃
18	6/6	炎症(V)	炎症反応に関わる細胞, ケミカルメディエーターを説明する	C-5-5) / 総 III 1-オ	〃
19	6/13	感染症	各種病原体による感染症について病理学的観点から概説する	C-5-5) / 総 III 1-カ	〃
20	6/13	免疫と病理	アレルギーと自己免疫疾患を概説する	C-4-2) / 総 III 6-カ, キ	〃
21	6/18	遺伝と疾患, 奇形	遺伝性疾患の代表例を説明し, 奇形について概説する	C-5-1) / 総 III 2-ア	〃
22	6/18	腫瘍(I)	腫瘍の定義, 形態と基本構造を説明する	C-5-6) / 総 III 1-ク	〃
23	6/20	腫瘍(II)	良性腫瘍と悪性腫瘍の生物学的性状を比較説明する	C-5-6) / 総 III 1-ク	〃
24	6/20	腫瘍(III)	上皮性腫瘍の特徴と分類について説明する	C-5-6) / 総 III 1-ク	〃
25	6/29	腫瘍(IV)	非上皮性腫瘍の特徴と分類について説明する	C-5-6) / 総 III 1-ク	〃
26	6/29	腫瘍(V)	腫瘍と遺伝子異常の関連について説明する	C-5-6) / 総 III 1-ク	〃
27	7/4	歯の発育異常, 歯の機械的・化学的損傷	歯の発育異常, 咬耗症, 磨耗症, 酸触症, 歯折, 脱臼について説明する	E-3-3) / 各 II 1-ア	〃
28	7/4	歯の沈着物, 着色, 変色	歯の沈着物としての歯垢・歯石, 歯の着色・変色について説明する	E-3-3) / 各 II 1-ア	〃
29	7/11	齲蝕症(I)	概論(定義), 疫学, 病因について述べる	E-3-2) / 各 II 1-ア	②

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
30	7/11	齲蝕症(II)	臨床所見に基づく分類(部位, 急性と慢性, 二次齲蝕)を説明する	E-3-2) / 各 II 2-ア	②
31	9/7	齲蝕症(III)	エナメル質初期齲蝕の組織学的特徴と再石灰化を説明する	E-3-2) / 各 II 2-ア	〃
32	9/7	齲蝕症(IV)	象牙質, セメント質各齲蝕病変の組織像を説明する	E-3-2) / 各 II 3-ア	〃
33	9/14	象牙質・セメント質の増生と吸収	第二・第三象牙質, セメント質増殖症, 歯の内部吸収を説明する	E-3-2) / 各 II 2-ア	③
34	9/14	歯髄の病変(I)	加齢による変化, 変性, 歯髄充血, 急性漿液性歯髄炎について説明する	E-3-2) / 各 II 2-ア	〃
35	9/21	歯髄の病変(II)	化膿性歯髄炎(急性, 慢性)について説明する	E-3-2) / 各 II 2-ア	〃
36	9/21	歯髄の病変(III)	潰瘍性歯髄炎, 増殖性歯髄炎について説明する	E-3-2) / 各 II 2-ア	〃
37	9/28	根尖部歯周組織の病変(I)	根尖性歯周炎, 歯根肉芽腫, 歯根嚢胞について互いの関連性を説明する	E-3-2) / 各 II 2-ア	〃
38	9/28	根尖部歯周組織の病変(II)	歯槽膿瘍の継発症として骨髄炎, 頭頸部膿瘍および蜂窩織炎を説明する	E-3-2) / 各 II 2-ア	〃
39	10/5	辺縁部歯周組織の病変(I)	歯周疾患の概念, 疫学, 病因について説明する	E-3-2) / 各 II 3-ア	〃
40	10/5	辺縁部歯周組織の病変(II)	ブラク性歯肉炎・慢性歯周炎の病理発生と病理組織像を詳説する	E-3-2) / 各 II 3-ア	〃
41	10/12	辺縁部歯周組織の病変(III)	歯周ポケット発生のメカニズム, 外傷性咬合に伴う組織変化を説明する	E-3-2) / 各 II 2-ア, 3-ア	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
42	10/12	辺縁部歯周組織の病変(Ⅳ)	非プラーク性歯肉病変, 侵襲性歯周炎, 壊死性歯周疾患について説明する	E-3-2) / 各Ⅱ3-ア	③
43	10/19	辺縁部歯周組織の病変(Ⅴ)	歯肉の増殖性病変(エプーリスを含む)について説明する	E-3-2) / 各Ⅱ3-ア	〃
44	10/19	口腔領域の嚢胞(Ⅰ)	嚢胞の定義, 発生メカニズム, 分類を説明する	E-2-4) / 各Ⅲ1-エ, 各Ⅲ2-オ	②
45	10/26	口腔領域の嚢胞(Ⅱ)	歯原性嚢胞の臨床的特徴・病理組織学的特徴を概説する	E-2-4) / 各Ⅲ1-エ, 各Ⅲ2-オ	〃
46	10/26	口腔領域の嚢胞(Ⅲ)	非歯原性嚢胞の臨床的特徴・病理組織学的特徴を概説する	E-2-4) / 各Ⅲ1-エ, 各Ⅲ2-オ	〃
47	11/2	口腔領域の腫瘍(Ⅰ)	歯原性腫瘍の分類と各論(エナメル上皮腫など)を概説する	E-2-4) / 各Ⅲ1-オ, 各Ⅲ2-カ	〃
48	11/2	口腔領域の腫瘍(Ⅱ)	歯原性腫瘍各論(エナメル上皮線維腫など)と顎骨腫瘍について説明する	E-2-4) / 各Ⅲ1-オ, 各Ⅲ3-カ	〃
49	11/9	口腔領域の腫瘍(Ⅲ)	非歯原性良性上皮性腫瘍を説明する	E-2-4) / 各Ⅲ1-オ, 各Ⅲ4-カ	〃
50	11/9	口腔領域の腫瘍(Ⅳ)	非歯原性良性非上皮性腫瘍を説明する	E-2-4) / 各Ⅲ1-オ, 各Ⅲ5-カ	〃
51	11/16	口腔領域の腫瘍(Ⅴ)	非歯原性良性非上皮性腫瘍と非歯原性悪性非上皮性腫瘍を説明する	E-2-4) / 各Ⅲ1-オ, 各Ⅲ6-カ	〃
52	11/16	口腔領域の腫瘍(Ⅵ)	非歯原性悪性非上皮性腫瘍の主要なものを説明する	E-2-4) / 各Ⅲ1-オ, 各Ⅲ7-カ	〃
53	11/30	口腔粘膜の病変(Ⅰ)	皮膚科的疾患, 自己免疫疾患の口腔粘膜発現について説明する	E-2-4) / 各Ⅲ1-ク	①
54	11/30	口腔粘膜の病変(Ⅱ)	色素沈着, 感染症(細菌, 真菌, ウイルス)を概説する	E-2-4) / 論Ⅲ1-ク	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
55	12/7	唾液腺の非腫瘍性病変	化生, 唾石症, 非特異性唾液腺炎, シェーグレン症候群について説明する	E-2-4) / 総Ⅲ3-ア	①
56	12/7	唾液腺腫瘍	良性腫瘍, 悪性腫瘍について概説する	E-2-4) / 総Ⅲ3-ア	〃
57	12/14	顎骨の非腫瘍性病変	顎骨骨髓炎, 遺伝性顎骨疾患について説明する	E-2-4) / 各Ⅲ2-エ	〃
58	12/21	歯周病と全身疾患	辺縁性歯周炎と肝炎, 糖尿病などとの関わりについて説明する	E-3-3) / 論Ⅱ2-ア	④
59	12/21	歯周病と全身疾患	辺縁性歯周炎と肝炎, 糖尿病などとの関わりについて説明する	E-3-3) / 論Ⅱ2-ア	〃
60	12/21	歯周病と全身疾患	辺縁性歯周炎と肝炎, 糖尿病などとの関わりについて説明する	E-3-3) / 論Ⅱ2-ア	〃

口腔病理学実習（後期・1単位）

科目責任者：伊東 博司（病理・教授）

科目担当者：①伊東 博司（病理），②遊佐 淳子（病理），
③櫻井 裕子（病理）

1. 科目の概要

人体の病巣から作製された病理組織標本を顕微鏡で観察することにより、講義で説明された病変がどのような病理組織像を示すかを学んでいく。この実習の前半では病理学総論で学んだ各病変を諸臓器において観察し、その組織像を理解する。それをもとに後半では、顎口腔領域の病変を観察し、他臓器での病変との共通性や特異性を検討する。実習に際しては顕微鏡観察を行うだけでなく、顕微鏡像のスケッチを主体とした、実習レポートを各学生に課す。これにより各自の理解度を高めると同時に、病変を的確に把握しているかどうかを判定する。

2. 一般目標

顎口腔領域の病変を的確に診断できるようになるために、諸病変の病理組織像を理解し、かつ、それを説明できる能力を習得することを目標とする。

3. 到達目標

- 1) 病変の組織像を正確にスケッチすることができる。
- 2) スケッチと文により、病理組織像を説明することができる。
- 3) 病変の組織像を観察して、その病変の病理組織診断名を述べることができる。

4. 履修の進め方

病理組織標本を顕微鏡で観察したのち、観察した組織像のスケッチと説明文を書いた実習レポートを作製する。

5. 履修の準備（参考書）

第2学年で講義された口腔組織学の事項で、各回実習に関連するものを再確認する。各回実習に関連する、口腔病理学講義の事項を再確認する。予習レポートを作製する。

6. 評価方法

実習試験（70%）、小テスト（20%）および提出した予習レポートの評価（10%）により評価する。

7. 教本

坂本 穆彦ら 編「標準病理学」第5版 医学書院 2015年
高木 實 監修「口腔病理アトラス」第3版 文光堂 2018年
下野正基ら 編「新口腔病理学」第2版 医歯薬出版 2018年
奥羽大学歯学部口腔病理学分野 著「実習写真集」2018年

8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1 2 3	9/6	変性	脂肪変性, 硝子変性	C-5-2) / 総 III-1-イ	① ② ③
4 5 6	9/13	壊死, 組織の増殖	凝固壊死, 融解壊死, 肉芽組織	C-5-2), C-5-3) / 総 III-1-イ, ウ	〃
7 8 9	9/20	循環障害	出血, うっ血, 水腫, 梗塞	C-5-4) / 総 III-1-エ	〃
10 11 12	9/27	炎症(1), 感染症	化膿性炎, 感染症 (小テスト)	C-4-1), C-5-5) / 総 III-1-オ, カ	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
13 14 15	10/4	炎症(2), 免疫異常	肉芽腫性炎, 橋本病, 結節性多発動脈炎	C-5-5), C-4-1), C-4-2) / 総 III-1-オ, キ	① ② ③
16 17 18	10/11	腫瘍	良性腫瘍, 悪性腫瘍, 上皮性腫瘍, 非上皮性腫瘍	C-5-6) / 総 III-1-ク	〃
19 20 21	10/18	齲蝕	エナメル質齲蝕, 象牙質齲蝕 (小テスト)	E-3-2) / 総 III-2-ア	〃
22 23 24	10/25	歯髄炎, 根尖性歯周炎	化膿性歯髄炎, 潰瘍性歯髄炎, 歯根嚢胞	E-3-2) / 総 III-2-ア, 各 II 2-ア	〃
25 26 27	11/1	歯周病, エプーリス	プラーク単独性歯肉炎, 慢性歯周炎, エプーリス	E-3-2), E-2-4) / 総 III-2-ア, 各 III 3-ア	〃
28 29 30	11/8	嚢胞(1)	含菌性嚢胞, 鼻口蓋管嚢胞, 類表皮嚢胞	E-2-4) / 総 III-2-ア, 各 III 1-エ, 各 III 2-オ	〃
31 32 33	11/15	嚢胞(2), 歯原性腫瘍(1)	歯原性角化嚢胞, 腺腫様歯原性腫瘍 (小テスト)	E-2-4) / 総 III-2-ア, 各 III 2-オ, カ	〃
34 35 36	11/22	歯原性腫瘍(2)	濾胞型エナメル上皮腫, 網状型エナメル上皮腫, エナメル上皮線維腫	E-2-4) / 総 III-2-ア, 各 III 2-カ	〃
37 38 39	11/29	歯原性腫瘍(3), 非歯原性腫瘍	セメント質骨形成線維腫, 乳頭腫, 扁平上皮癌	E-2-4) / 総 III-2-ア, 各 III 1-オ, 各 III 2-カ	〃
40 41 42	12/6	粘膜疾患, 唾液腺疾患(1)	白板症(過形成上皮, 異型上皮), 扁平苔癬, 天疱瘡, 粘液瘤	E-2-4) / 総 III-2-ア, 各 III 1-ク, III 3-ア, III 4-オ	〃
43 44 45	12/13	唾液腺疾患(2)	慢性硬化性唾液腺炎, 多形腺腫, 腺様嚢胞癌 (小テスト)	E-2-4) / 総 III-2-ア, 各 III 3-ア	〃

口腔感染免疫学Ⅱ（前期・2単位）

科目責任者：清浦 有祐（感染・教授）

科目担当者：①清浦 有祐（感染）、②玉井利代子（感染）

1. 科目の概要

口腔感染症及び全身感染症の原因となる微生物とそれに対するヒトの免疫応答について講義を行う。特に免疫応答については2年次における口腔感染免疫学Ⅰの講義を基に掘り下げて詳しく解説する。さらにヒトの二大口腔感染症である齶蝕と歯周病の原因菌とその性状を説明する。

2. 一般目標

口腔感染症及び全身感染症の原因となる微生物とそれに対する免疫応答に関する知識を身につける。具体的には以下のことである。1) 微生物感染に対する免疫応答を理解する。2) 免疫応答に関係する細胞性因子を理解する。3) 免疫応答に関係する液性因子を理解する。4) 齶蝕と歯周病の原因菌を理解する。5) 齶蝕と歯周病の起こるメカニズムを理解する。

3. 到達目標

- 1) 微生物感染に対する免疫応答を説明する。
- 2) 免疫応答に関係する細胞性因子を説明する。
- 3) 免疫応答に関係する液性因子を説明する。
- 4) 齶蝕と歯周病の原因菌を説明する。
- 5) 齶蝕と歯周病の起こるメカニズムを説明する。

4. 履修の進め方

講義形式で教科書・配布プリントを使用して履修する。講義中に、質問を投げかけ、それに対する応答を求めて授業の理解度を確認する。

5. 履修の準備（参考書）

毎回の講義終了時に次回の講義予定を説明するので当該部分の配布プリント・教科書を読んでおくこと。

6. 評価方法

定期試験及び中間試験で評価する。2つの平均点が65点以上を合格とする。定期試験及び中間試験の試験問題はどちらも記述と多肢選択方式の2つが含まれる。

7. 教本

口腔微生物学—感染と免疫— 第6版 学建書院 2018年
講義・実習解説書 教室作成 2018年

8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/9	免疫学概論	ヒトの感染防御メカニズム	C-4-2)-①, ②, ③/総Ⅱ-3-ア～オ	①
2	4/9	免疫担当細胞	免疫担当細胞の種類	C-4-2)-③/総Ⅱ-3-ア	〃
3	4/11	顆粒球	顆粒球の機能	C-4-2)-③/総Ⅱ-3-ア	〃
4	4/11	T細胞	T細胞の機能	C-4-2)-③/総Ⅱ-3-ア	〃
5	4/18	B細胞	B細胞の機能	C-4-2)-③/総Ⅱ-3-ア	〃
6	4/18	抗原提示細胞	抗原提示細胞の機能	C-4-2)-③/総Ⅱ-3-イ	〃
7	4/25	サイトカインⅠ	サイトカインの種類	C-4-2)-①, ②, ③/総Ⅱ-3-ウ, エ-a, b	〃
8	4/25	サイトカインⅡ	サイトカインの病態への影響	C-4-2)-①, ②, ③/総Ⅱ-3-ウ, エ-a, b	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
9	5/9	アレルギーⅠ	アレルギーの種類	C-4-2)-⑤, ⑥/総Ⅲ-1-キ-d	②
10	5/9	アレルギーⅡ	アレルギーの発症メカニズム	C-4-2)-⑤, ⑥/総Ⅲ-1-キ-d	〃
11	5/16	自己免疫疾患	自己免疫疾患の種類	C-4-2)-④, ⑥/総Ⅲ-1-キ-c	〃
12	5/16	免疫寛容	免疫寛容のメカニズム	C-4-2)-④/総Ⅱ-3-エ-a, b	〃
13	5/23	ワクチンⅠ	ワクチンの役割	C-4-2)-⑧/総Ⅲ-1-カ-c	①
14	5/23	ワクチンⅡ	ワクチンの種類	C-4-2)-⑧/総Ⅲ-1-カ-c	〃
15	5/28	粘膜免疫	粘膜免疫の機能と役割	C-4-2)-⑦/総Ⅱ-3-オ	〃
16	5/28	中間試験	第1回～第15回までの講義内容についての試験		〃
17	5/30	口腔細菌	口腔常在細菌の種類	C-4-1)-①/必5-イ-a, c	〃
18	5/30	齶蝕原性細菌Ⅰ	齶蝕の原因菌とその種類	C-4-1)-①/各Ⅱ-1-ア-a	〃
19	6/6	齶蝕原性細菌Ⅱ	齶蝕の発症メカニズム	C-4-1)-①/各Ⅱ-1-ア-a	〃
20	6/6	歯周病原性細菌Ⅰ	歯周病原性細菌の種類	C-4-1)-①/各Ⅱ-3-ア-c	〃
21	6/13	歯周病原性細菌Ⅱ	歯周病原性細菌の病原性	C-4-1)-①/各Ⅱ-3-ア-c	〃
22	6/13	歯周病原性細菌Ⅲ	歯周病原性細菌に対する免疫応答	C-4-1)-①/各Ⅱ-3-ア-c	〃
23	6/20	口腔内の真菌	口腔内の真菌の種類とその特性	C-4-1)-①, ②/総Ⅲ-1-カ-b	〃
24	6/20	口腔内のウイルスⅠ	口腔内のウイルスの種類	C-4-1)-①/総Ⅲ-1-カ-b	〃
25	6/27	口腔内のウイルスⅡ	口腔内のウイルスの病原性	C-4-1)-②/総Ⅲ-1-カ-b	〃
26	6/27	肝炎ウイルスⅠ	肝炎ウイルスの種類	C-4-1)-①, ②/総Ⅲ-1-カ-b	〃
27	7/4	肝炎ウイルスⅡ	肝炎ウイルスの病原性	C-4-1)-①, ②/総Ⅲ-1-カ-b	〃
28	7/4	HIVⅠ	HIVの特性とその病原性	C-4-1)-①, ②/総Ⅲ-1-カ-b	〃
29	7/11	HIVⅡ	AIDSの発症メカニズム	C-4-1)-①, ②/総Ⅲ-1-カ-b	〃
30	7/11	薬剤耐性菌	抗菌薬に対する耐性メカニズム	C-4-1)-①, ②, ④/必2-カ-b	〃

口腔感染免疫学実習（前期・1単位）

科目責任者：清浦 有祐（感染・教授）

科目担当者：①清浦 有祐（感染）、②玉井利代子（感染）、
③小林美智代（感染）

1. 科目の概要

口腔感染免疫学の講義内容を実際に自分で確認してその理解を深めることで、歯科医師としての日常に応用できる感染免疫学の知識とその手技を修得するために行う。

2. 一般目標

口腔感染症及び全身感染症の原因となる微生物とそれに対する免疫応答に関する知識と技術を身につける。具体的には以下のことである。1) 細菌と真菌の取り扱いに関する手技を習得する。2) 細菌と真菌の基本的な形態を理解する。3) 薬剤の細菌への効果を知ることで、化学療法の原理を理解する。4) 齶蝕と歯周病の原因菌の性状を実際に調べて理解する。5) ヒトの生体防御のメカニズムを理解する。

3. 到達目標

- 1) 細菌と真菌の取り扱いに関する手技を説明する。
- 2) 細菌と真菌の基本的な形態を説明する。
- 3) 薬剤の細菌への効果を知ることで、化学療法の原理を説明する。
- 4) 齶蝕と歯周病の原因菌の性状を実際に調べ説明する。
- 5) ヒトの生体防御のメカニズムを説明する。

4. 履修の進め方

実習の内容に関する講義を行ってから、実習テキストに従って実習を行っていく。原則として当日の実習結果を指定されたレポート形式で記載して次回の実習時に提出する。

5. 履修の準備（参考書）

毎の実習終了時に次回の講義予定を説明するので当該部分の配布プリント・教科書を読んでおくこと。

6. 評価方法

実習に関する筆記試験と実技試験の結果（60%）と提出されたレポートの採点結果（40%）で評価する。65点以上を合格とする。

7. 教本

口腔微生物学—感染と免疫— 第6版 学建書院 2018年
講義・実習解説書 教室作成 2018年

8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1 2 3	4/5	オリエンテーション	感染免疫学実習の特色とその注意点	C-4-1)-①, ②/総Ⅲ-1-カ-b	① ② ③
4 5 6	4/12	グラム染色	細菌のグラム染色法の理論とその実技	C-4-1)-①, ②/必10-エ-e	〃
7 8 9	4/16	細菌コロニーの観察	細菌コロニーの観察	C-4-1)-①, ②/必10-エ-e	〃
10 11 12	4/19	特殊染色	特殊染色による細菌の染色	C-4-1)-①, ②/必10-エ-e	〃
13 14 15	4/26	消毒と無菌試験	各種消毒薬に対する細菌の感受性	C-4-1)-①, ②/必12-エ-a	〃
16 17 18	5/10	抗菌薬感受性試験	各種抗菌薬に対する細菌の感受性	C-4-1)-⑤/ 総Ⅶ-8-ウ-c	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
19 20 21	5/17	実習筆記試験	実習内容に関する筆記試験		① ② ③
22 23 24	5/24	歯垢細菌	歯垢中の細菌観察	C-4-1)-①, ②/必5-イ-c	〃
25 26 27	5/31	齶蝕原性細菌	齶蝕原性細菌の観察	C-4-1)-①, ②/各Ⅱ-1-ア-a	〃
28 29 30	6/7	歯周病原性細菌	歯周病原性細菌の観察	C-4-1)-①, ②/各Ⅰ-3-ア-c	〃
31 32 33	6/14	口腔真菌	口腔真菌の観察	C-4-1)-②/ 総Ⅲ-1-カ-b	〃
34 35 36	6/21	抗原抗体反応	ゲル拡散法による沈降反応の実際	C-4-2)-①, ②/総Ⅱ-3-エ-b	〃
37 38 39	6/28	口腔微生物のまとめ	口腔微生物の総括	C-4-1), 2)- ①, ②/必5-イ-a	〃
40 41 42	7/5	実習実技試験	細菌のグラム染色の実技試験		〃
43 44 45	7/12	実習筆記試験	実習内容に関する筆記試験		〃

歯科薬理学Ⅱ（前期・2単位）

科目責任者：鈴木 恵子（薬理・教授）

科目担当者：①鈴木 恵子（薬理）、②鈴木 礼子（薬理）、
③長岡 正博（薬理）

1. 科目の概要

本科目の履修意義は、歯科臨床において適切な処方ができ、他科で処方された薬についても十分に理解できるようになることである。このためには、薬物の作用機序に主体をおく基礎薬理学に加えて、疾患に対する薬物治療を科学的に考究する臨床薬理学の知識も重要である。また、個々の薬物の適応症についても熟知しておく必要がある。本科目では、薬物を生体に投与したときの薬物動態（生体が薬物に及ぼす作用）と薬力学（薬物が生体に及ぼす作用）を理解したうえで臨床薬理学について、講義主体で学修する。特に歯科医療現場で頻用する薬物（局所麻酔薬、鎮痛薬、抗炎症薬、抗感染症薬、消毒薬、歯科専用薬物）には重点をおいて講義する。

2. 一般目標

歯科医療現場において、患者の健康とQOLを考慮し、患者個々に応じた適切かつ最新の治療計画を立案して安全かつ適切に薬物を使用するため、歯科医師が最低限知っていなければならない他科処方薬についての知識を修得する（一般薬理学）。また、エビデンスに基づいた歯科医学の知識と歯科医療の技能を身につけるため、歯科医療現場で特に使用頻度の高い薬物（局所麻酔薬、鎮痛薬、抗炎症薬、抗感染症薬、消毒薬、歯科専用薬物、唾液腺作用薬）についての専門知識を修得する（歯科領域の薬理学）。

3. 到達目標

- 1) 代表的な全身麻酔薬、鎮静・催眠薬、中枢神経疾患治療薬の薬理作用と作用機序について説明できる。
- 2) 自律神経系、運動神経に作用し、その支配器官の機能を修飾する代表的な薬物の薬理作用と作用機序について説明できる。
- 3) 代表的な循環器系・呼吸器系・消化器系治療薬の薬理作用と作用機序について説明できる。
- 4) 代表的な止血薬、抗血栓薬、抗悪性腫瘍薬・代謝改善薬の薬理作用と作用機序について説明できる。
- 5) 歯科医療で重要な薬物（局所麻酔薬、鎮痛薬、抗炎症薬、抗感染症薬、消毒薬、歯科専用薬物、唾液腺作用薬）の薬理作用、作用機序、主な副作用について説明できる。

4. 履修の進め方

講義プリントを適宜配布するので、プリントやノートに、講義スライドの要点や口頭説明内容を記録する。復習課題がある時は、講義の記憶が新しいうちに取り組み、理解を深め知識の定着を図る。不明点は、教員に積極的に質問し、解決する。

5. 履修の準備（参考書）

シラバスの授業内容と日程を確認し、講義内容に関連する基礎知識（既に他科目で学習した事項）を復習したうえで講義に臨む。以下に参考図書を提示する。

<参考図書>

野村隆英 他編「シンプル薬理学」改訂第5版 南江堂 2014

大谷啓一 監修「現代歯科薬理学」第6版 医歯薬出版 2018

坂上 宏 他編「解る！歯科薬理学」第2版 学建書院 2009

6. 評価方法

定期試験および中間試験で評価する。各試験で65%以上を合格とする。

7. 教本

薬物治療を行う疾病についての基本的理解を助けるために、各自予習して授業にのぞむこと。

鈴木邦明 他 編「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3薬理学」医歯薬出版 2018

8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/9	一般薬理学 1：中枢神経作用薬①	全身麻酔薬と麻酔前投薬の分類・特徴・作用機序	C-6-2, E-1-4/必 12-カ,コ,総 VII-4ウ,8	①
2	4/9	一般薬理学 2：中枢神経作用薬②	鎮静・催眠薬,抗精神病薬,抗うつ薬の作用機序・副作用	C-6-2,4/必 12-コ,総VII -8	〃
3	4/16	一般薬理学 3：中枢神経作用薬③	抗てんかん薬,中枢神経変性疾患治療薬の薬理作用・作用機序・副作用	C-6-2,4/必 12-コ,総VII -8	〃
4	4/16	一般薬理学 4：末梢神経作用薬①	交感神経作用薬と拮抗薬薬理作用と受容体,適応症	C-6-2,4/必 12-コ,総VII -8	〃
5	4/23	一般薬理学 5：末梢神経作用薬②	副交感神経作用薬と拮抗薬薬理作用と受容体,適応症	C-6-2,4/必 12-コ,総VII -8	〃
6	4/23	一般薬理学 6：末梢神経作用薬③	運動神経作用薬と拮抗薬薬理作用と受容体,適応症	C-6-2,4/必 12-コ,総VII -8	〃
7	5/7	歯科領域の薬理学1：鎮痛薬①	痛みの伝導路,オピオイド受容体	C-6-2,4/必 12-コ,総VII -8	③
8	5/7	歯科領域の薬理学2：鎮痛薬②	鎮痛薬の分類,作用機序,適応,副作用	C-6-2,4/必 12-コ,総VII -8	〃
9	5/14	歯科領域の薬理学3：抗炎症薬①	炎症の定義と発症機序,ステロイド性抗炎症薬の適応・副作用	C-6-2,4/必 12-コ,総VII -8	〃
10	5/14	歯科領域の薬理学4：抗炎症薬②	非ステロイド性抗炎症薬の適応・副作用・薬物相互作用,広義の抗炎症薬	C-6-2,4/必 12-コ,総VII -8	〃
11	5/21	歯科領域の薬理学5：抗菌薬①	化学療法 of 概念,抗菌薬の作用機序・分類	C4-1,6-2, 4/必12-コ, 総VII-8	〃
12	5/21	歯科領域の薬理学6：抗菌薬②	主な抗菌薬の特徴・副作用,薬物相互作用	C4-1,6-2,4 /必12-コ, 総VII-8	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
13	5/21	歯科領域の薬理学7:局所麻酔薬①	局所麻酔薬の分類, 適用方法, 作用機序, 作用に影響する因子	C-6-2, E-1-4/必12-カ, コ, 総VII-4ウ, 8	②
14	5/21	歯科領域の薬理学8:局所麻酔薬②	局所麻酔の偶発症, 主な局所麻酔薬の特徴, 血管収縮薬との併用効果	C-6-2, E-1-4/必12-カ, コ, 総VII-4ウ, 8	〃
15	5/28	歯科領域の薬理学9:抗真菌薬・抗ウイルス薬	抗真菌薬・抗ウイルス薬の分類・作用機序・副作用	C-6-2, 4/必12-コ, 総VII-8	〃
16	5/28	歯科領域の薬理学10:消毒薬	消毒薬の分類・適応, 消毒効果に影響を及ぼす要因	C4-1, 6-2, 4/必12-コ, 総VII-8	〃
17	5/28	歯科領域の薬理学11:歯科領域における薬物療法	歯科領域の神経疾患・菌性感染症・口腔粘膜疾患・顎関節症の治療薬	E-2-4/各Ⅲ	〃
18	5/28	歯科領域の薬理学12:歯科専用薬物・唾液腺作用薬	腐食薬および収斂薬, 歯・歯髄疾患と薬, 口腔乾燥症治療薬	C-6-2, 4/必12-コ, 総VII-8, 各Ⅲ	〃
19	6/4	中間試験	歯科領域の薬理学1~12の適宜試験		② ③
20	6/4	中間試験の解説	歯科領域の薬理学1~12の適宜試験の解説		〃
21	6/11	一般薬理学まとめ	一般薬理学1~6の復習と問題演習	C-6-2, 4/必12-コ, 総VII-8	①
22	6/11	一般薬理学7:循環器作用薬	心不全・不整脈・狭心症・高血圧治療薬の分類と作用機序	C-6-2, 4/必12-コ, 総VII-8	〃
23	6/18	一般薬理学8:腎臓作用薬	腎臓機能の基本的理解, 利尿薬の分類と作用機序	C-6-2, 4/必12-コ, 総VII-8	〃
24	6/18	一般薬理学9:呼吸器作用薬	気管支喘息治療薬, 鎮咳薬, 抗結核薬, 呼吸促進薬の分類と作用機序	C-6-2, 4/必12-コ, 総VII-8	〃
25	6/25	一般薬理学10:消化器作用薬	胃酸分泌機構の基本的理解, 消化性潰瘍治療薬の分類と作用機序	C-6-2, 4/必12-コ, 総VII-8	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
26	6/25	一般薬理学11:血液作用薬	止血-線溶機構の理解と止血薬・抗血栓薬・血栓溶解薬の作用機序	C-6-2, 4/必12-コ, 総VII-8	①
27	7/2	一般薬理学12:代謝改善薬	ホルモン・ビタミン製剤の作用と適応症, 生活習慣病治療薬の作用機序	C-6-2, 4/必12-コ, 総VII-8	〃
28	7/2	一般薬理学13:抗悪性腫瘍薬	抗悪性腫瘍薬の分類と作用機序・副作用	C-6-2, 4/必12-コ, 総VII-8	〃
29	7/9	歯科薬理学まとめ	歯科薬理学の復習と問題演習	C-6-2, 4/必12-コ, 総VII-8	① ② ③
30	7/9	中間試験の追再試験	歯科領域の薬理学1~12適宜試験の追再試験		② ③

歯科薬理学実習（前期・1単位）

科目責任者：鈴木 恵子（薬理・教授）

科目担当者：①鈴木 恵子（薬理）、②鈴木 礼子（薬理）、
③長岡 正博（薬理）

1. 科目の概要

歯科薬理学Ⅰおよび歯科薬理学Ⅱの講義で学んだ知識を、自分の体験を通して確実にすることを目標とした実習である。具体的には、動物愛護の精神を遵守した上での小動物を用いた動物実験に加えて、動物実験の代替法としてのコンピュータシミュレーション実習や、問題解決型学習・チーム基盤型学習などの手法を取り入れた総合的な実習を行う。

2. 一般目標

歯科薬理学Ⅰおよび歯科薬理学Ⅱの講義で学んだ知識を統合して活用できるようになるために、自ら実習課題に取り組む過程を通じて、生体に対する生物学的思考を涵養する。

3. 到達目標

- 1) 動物愛護の精神（3つのR）を理解し、実践できる。
- 2) 薬物動態（吸収・分布・代謝・排泄）について説明できる。
- 3) 骨格筋に作用する薬物について説明できる。
- 4) 腸管平滑筋に作用する薬物について説明できる。
- 5) 循環器に作用する薬物について説明できる。
- 6) 歯科診療において適切な処方をするために必要な情報を列挙できる。
- 7) 処方例について科学的な根拠に基づいた説明ができる。
- 8) 適切な服薬指導ができる。

4. 履修の進め方

実習形式で履修する。

5. 履修の準備（参考書）

シラバスに記載された到達目標を確認し、関連する歯科薬理学ⅠおよびⅡの講義プリント等を復習したうえで実習に臨む。

<参考図書>

野村隆英 他編 「シンプル薬理学」改訂第5版 南江堂 2014

大谷啓一 監修 「現代歯科薬理学」第6版 医歯薬出版 2018

坂上 宏 他編 「解る！歯科薬理学」第2版 学建書院 2009

6. 評価方法

リクワイアメントで評価する。到達目標すべてを達成した場合に100点とし、ミニマムリクワイアメントについては科目初日のオリエンテーションで説明する。

7. 教本

浦部晶夫 他編 「今日の治療薬 2018」 南江堂 2018

8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1 2 3	4/6	オリエンテーション	動物愛護の精神(3つのR), 薬物の用量, 薬液の濃度・容量	A-1/必1-A, 総VII8	① ② ③
4 5 6	4/13	薬物動態-1	薬物動態(吸収・分布・代謝・排泄)	C-6/必12-コ, 総VII-8	〃
7 8 9	4/20	薬物動態-2	薬物動態(吸収・分布・代謝・排泄)	C-6/必12-コ, 総VII-8	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
10 11 12	4/27	神経筋接合部に作用する薬物-1	筋弛緩薬の作用機序と併用薬の影響	C-6/必12-コ, 総VII-8	① ② ③
13 14 15	5/11	神経筋接合部に作用する薬物-2	筋弛緩薬の作用機序と併用薬の影響	C-6/必12-コ, 総VII-8	〃
16 17 18	5/18	自律神経系に作用する薬物 I-1	腸管平滑筋に作用する薬物と遮断薬の効果	C-6/必12-コ, 総VII-8	〃
19 20 21	5/25	自律神経系に作用する薬物 I-2	腸管平滑筋に作用する薬物と遮断薬の効果	C-6/必12-コ, 総VII-8	〃
22 23 24	6/1	自律神経系に作用する薬物 II-1	循環器に作用する薬物と遮断薬の効果	C-6/必12-コ, 総VII-8	〃
25 26 27	6/8	自律神経系に作用する薬物 II-2	循環器に作用する薬物と遮断薬の効果	C-6/必12-コ, 総VII-8	〃
28 29 30	6/15	自律神経系に作用する薬物 II-3	循環器に作用する薬物と遮断薬の効果	C-6/必12-コ, 総VII-8	〃
31 32 33	6/22	PBL1, 動物実習	歯科医師が知るべき薬の副作用(グループ討議), ラットの血圧・心拍数計測	A-2, 4, 6, C-6/必12-コ, 総VII-8	〃
34 35 36	6/25	PBL2, 動物実習	歯科医師が知るべき薬の副作用(グループ討議), ラットの血圧・心拍数計測	A-2, 4, 6, C-6/必12-コ, 総VII-8	〃
37 38 39	6/29	PBL3, 動物実習	歯科医師が知るべき薬の副作用(グループ討議), ラットの血圧・心拍数計測	A-2, 4, 6, C-6/必12-コ, 総VII-8	〃
40 41 42	7/6	PBL4	歯科医師が知るべき薬の副作用(プレゼンテーション)	A-2, 4, 6, C-6/必12-コ, 総VII-8	〃
43 44 45	7/13	PBL5	歯科医師が知るべき薬の副作用(プレゼンテーション)	A-2, 4, 6, C-6/必12-コ, 総VII-8	〃

生体材料・歯科材料学Ⅱ（前期・2単位）

科目責任者：岡田 英俊（材料・教授）

科目担当者：①岡田 英俊（材料）、②石田 喜紀（材料）、
③覚本 嘉美（非常勤）

1. 科目の概要

歯科材料には金属材料、無機材料、有機材料、およびこれらを複合した材料があり、印象用、模型用、義歯床用など多様な形で応用されている。生体材料・歯科材料学は、これらの材料の成り立ちの基礎的な理論や特性および実際の取り扱い技術を学習する科目である。各論では臨床で使用される材料であることを踏まえて、材料毎に所要性質、構成成分、その役割、物理化学的および機械的性質などを理解するとともに、それらの取り扱い法について学ぶ。

2. 一般目標

生体材料・歯科材料の組成、特性を学びその正しい使用法を理解する。

3. 到達目標

- 1) 歯科修復物を構成する各種の生体材料を説明できる。
- 2) 成形加工に用いる歯科材料と器具の特性および使用方法について説明できる。
- 3) さまざまな症例に適応した歯科材料や器具が選定できる。

4. 履修の進め方

要点はプロジェクターを活用し、視覚素材を多用することで極力図案として記憶出来るようにする。また、学生は板書の内容、教科書およびレジュメの書き込みを行い理解を深める。双方向の講義に留意して疑問点を聞き出す。

5. 履修の準備（参考書）

今回の授業内容について教科書、参考書を熟読する。
（宮崎 隆 他「臨床歯科理工学」医歯薬出版 2006年）

6. 評価方法

定期試験で評価する。65点以上で合格とする。試験問題は選択式とする。

7. 教本

中嶋 裕 他「スタンダード歯科理工学第6版」学建書院 2016年

8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/10	歯科精密鑄造(1)	歯科用ワックスの成分, 特性および使用方法	D-2/総XI-6	①
2	4/10	歯科精密鑄造(2)	埋没材の種類, 性質, 役割および操作法	D-2/総XI-12	〃
3	4/17	歯科精密鑄造(3)	歯科精密鑄造の基礎理論	D-2/総論XI-12	〃
4	4/17	歯科精密鑄造(4)	歯科精密鑄造の工程と器械	D-2/総XI-12	〃
5	4/23	歯科精密鑄造(5)	鑄造体の製作工程—埋没法, 鑄造法	D-2/総XI-12	〃
6	4/23	歯科精密鑄造(6)	鑄造欠陥の成因とその対策	D-2/総XI-12	〃
7	4/24	歯科精密鑄造(7)	鑄造欠陥の成因とその対策	D-2/総XI-12	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
8	4/24	歯科用金属材料(1)	歯科用貴金属合金の種類と特性	D-1/総XI-8, 9	①
9	5/8	歯科用金属材料(2)	歯科用非貴金属合金の種類と特性	D-1/総XI-8, 9, 15	〃
10	5/8	歯科用金属材料(3)	軟化熱処理と硬化熱処理	D-2/総XI-12	〃
11	5/15	歯科用金属材料(4)	加工硬化と諸性質の変化	D-2/総XI-12	〃
12	5/15	歯科用金属材料(5)	ろう付け用材料の特性と使用方法	D-2/総XI-9, 12	〃
13	5/22	歯冠用材料(1)	歯科用陶材の臨床応用と所要性質	D-2/総XI-8	②
14	5/22	歯冠用材料(2)	歯科用陶材の理工学的性質	D-2/総論XI-8	〃
15	5/29	歯冠用材料(3)	陶材焼付鑄造冠の特性と作製法	D-2/総XI-11	〃
16	5/29	歯冠用材料(4)	歯科用陶材冠の作製法	D-2/総XI-11, 13	〃
17	6/4	歯冠用材料(5)	歯科用陶材冠の作製法(2)	D-2/総XI-11, 13	〃
18	6/4	歯冠用材料(6)	硬質レジン前装冠の特性	D-2/総XI-8, 13	〃
19	6/5	歯科用セメント(1)	歯科用合着材の用途	D-2/総論XI-14	①
20	6/5	歯科用セメント(2)	歯科用合着材の成分と特性(1)	D-2/総論XI-14	〃
21	6/12	歯科用セメント(3)	歯科用合着材の成分と特性(2)	D-2/総論XI-14	〃
22	6/12	歯科用セメント(4)	歯科用合着材の成分と特性(3)	D-2/総論XI-14	〃
23	6/19	歯科用セメント(5)	接着の理論	D-2/総XI-13, 14, 15	〃
24	6/19	歯科用セメント(6)	裏層材, 覆髄材および根管充填材の特性(1)	D-2/総XI-7, 8	〃
25	6/26	歯科用セメント(7)	裏層材, 覆髄材および根管充填材の特性(2)	D-2/総XI-7, 8	〃
26	6/26	歯科用インプラント	歯科用インプラントの概要と理工学的性質	D-2/総XI-16	③
27	7/3	生体材料	骨補填材や組織工学用材料の種類と特性	D-1, -2/総XI-16	①

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
28	7/3	修復物の研磨 (1)	研磨に関する 理論, 研磨用 工具の種類と 特性	D-1/総XI-3	②
29	7/10	修復物の研磨 (2)	切削研磨用機 械の種類と特 性	D-1/総XI -2	〃
30	7/10	予防填塞材 料・矯正用材 料	予防填塞材料 の種類, 成分 および特性矯 正用材料の種 類と特性	D-2/総XI -7, 15	〃

生体材料・歯科材料学実習（前期・1単位）

科目責任者：岡田 英俊（材料・教授）

科目担当者：①岡田 英俊（材料）、②石田 喜紀（材料）、
③大木 達也（材料）、④齋藤 龍一（材料）、
⑤熊倉 学（非常勤）、⑥覚本 嘉美（非常勤）、
⑦泉 俊郎（非常勤）

1. 科目の概要

歯科理工学という科目は単に材料の物性や機器の構造を学ぶのみではない。歯科補綴学、保存修復学をはじめ、その他臨床で使用する材料や機器を、科学的法則に基づいてより効果的に取り扱う手法を学ぶことにある。したがって、歯科理工学の実習では講義で学んだ理論を実証し、講義で理解が不十分であったところを実際に自らの手で扱い、目で観察することによってその材料の基本的な性質および正しい使用法を学ぶ。

2. 一般目標

歯科臨床で取り扱う材料と器械を正しく使用するために、その特性と操作法を理解する。

3. 到達目標

- 1) 印象材と模型材の種類および特性を理解し操作できる。
- 2) 義歯床と鑄造物について関連材料の特性を理解し作製法を習得する。
- 3) 切削・研磨用材料の種類および特性を理解する。
- 4) 成形修復材料および歯科用セメントの種類と特性を理解し操作できる。
- 5) 金属の熱処理について操作法と性質の変化を理解する。

4. 履修の進め方

実習書を基にビデオ映像や実技のデモなどで説明し、実際に材料・器具に触れる。実習を進めるにあたりチェック項目を設け、各項目で担当教員がチェックを行う。また、知識の習得と技術の向上のために試験を行い理解を深める。実習中は疑問点を聞き出し解説する。

5. 履修の準備（参考書）

実習内容や使用機材を実習書にて確認し、準備することで実習をスムーズに行えるようにする。また、実習書の各項目ごとに記載されている「実習の目的」について教科書や講義ノートを基にまとめる。

6. 評価方法

①実習の各工程に対するチェックと提出した作品の評価および実習態度（40%）、②2回の小試験（20%）、③総合試験と実技試験（40%）により評価する。①+②+③の合計で65点以上を合格とする。

7. 教本

①生体材料学講座 編「生体材料・歯科材料学実習書」日進堂印刷 2017

②中野 裕 他編「スタンダード歯科理工学第6版」学建書院 2016

8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/10	オリエンテーション・印象材・模型材(1)	器材チェック、印象用関連機材の操作法	コ：D-2-③ 国：総論XI-4-オ	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦
2	4/17	印象材・模型材(2)	印象採得と模型製作	コ：D-2-③④ 国：総論XI-4-オ、5-ア	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
3	4/24	印象材・模型材(3)	義歯床用模型の製作、支台原型の印象採得と作業用模型製作(1)	コ：D-2-④ 国：総論XI-5-ア	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦
4	5/8	印象材・模型材(4)	義歯床用模型の製作、支台原型の印象採得と作業用模型製作(2)	コ：D-2-③ 国：総論XI-4-キ	〃
5	5/14	歯科精密鑄造(1)	ワックスパターンの製作と埋没	コ：D-2-⑤⑥ 国：総論XI-6-ア、12-イ	〃
6	5/15	歯科精密鑄造(2)	鑄造操作と鑄造体の取り出し(1)	コ：D-1-④、2-⑤⑥ 国：総論XI-12-ア	〃
7	5/22	歯科精密鑄造(3)	鑄造操作と鑄造体の取り出し(2)	コ：D-1-④、2-⑤⑥ 国：総論XI-12-ア	〃
8	5/29	歯科精密鑄造(4)	適合度の測定と鑄造体の研磨小試験(第1回)	コ：D-1-④、2-⑥ 国：総論XI-3、12-エ、オ	〃
9	6/5	床用レジン(1)	ワックスパターンの作製と人工歯の排列	コ：D-2-②⑤⑥ 国：総論XI-6-イ、9-オ	〃
10	6/11	床用レジン(2)	埋没と流ロウ	コ：D-2-②⑥ 国：総論XI-9-ア	〃
11	6/12	床用レジン(3)	もち状物の填入と重合	コ：D-1-④、2-②⑥ 国：総論XI-9-ア、10-ア	〃
12	6/19	床用レジン(4)	適合度の測定と重合体の研磨	コ：D-1-④、2-②⑥ 国：総論XI-3、9-イ	〃
13	6/26	成形修復材	成形修復材の充填と硬さの測定	コ：D-2-① 国：総論XI-1-カ、7-ア、ウ	〃
14	7/3	合着用セメント・金属の熱処理	セメントの被膜厚さの測定・鑄造体の熱処理小試験(第2回)	コ：D-2-⑥⑦ 国：総論XI-1、8、12、14	〃
15	7/10	実習試験	総合試験、実技試験	コ：D-1、2 国：総論XI-3~10、12~14	〃

口腔衛生学 (通年・3単位)

科目責任者：廣瀬 公治 (衛生・教授)

科目担当者：①廣瀬 公治 (衛生)，②大橋 明石 (衛生)，
③菊地 正樹 (非常勤)

1. 科目の概要

口腔衛生学は、他の臨床歯科医学と異なり、学問の出発点が疾病ではなく健康にあること、そして、その対象を集団を主としていところに大きな特徴を持つ。また、歯科医師法第1条にあるように、歯科医師は保健指導を掌り、公衆衛生の向上・増進に寄与するとある。よって、この基礎となる本科目では、まず衛生学・公衆衛生学を学ぶ。そして、後段では口腔疾患の予防法とそれを社会に適用させる地域歯科保健について学ぶ。

2. 一般目標

地域口腔保健支援活動および予防歯科診療をエビデンスに基づき適切に対応できる基本的知識を習得する。

3. 到達目標

- 1) 健康の概念と予防の段階を説明できる。
- 2) 疫学の研究方法を説明できる。
- 3) 自然環境や公衆衛生状況の健康への関りを説明できる。
- 4) 口腔疾患の成り立ちと予防法を説明できる。
- 5) 口腔保健支援活動の実施内容と方法およびその法的枠組みを説明できる。

4. 履修の進め方

講義形式で履修する。

5. 履修の準備

学修項目についてあらかじめ教科書を読む。また、3年前期で実施する社会歯科学と関連が強いので、その関連性にも着意する。このことが臨床系歯科学で学ぶ多くの疾病を予防するための方策を考える基礎に繋がる。

6. 評価方法

中間試験と定期試験で評価する。

7. 教本

末高武彦 他 編 スタンダード衛生学・公衆衛生学
学建書院 2015

安井利一 他 編 口腔保健・予防歯科学 医歯薬出版
2017

8. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/5	衛生学概論	健康の定義, 疾病の自然史	B-1/総 I-1	①
2	4/5	衛生学概論	PHCとHP, 健康日本21 (第二次), 保健戦略	B-3-1)/総 I-1, 必4-ア	〃
3	4/12	疫学	疫学の概念, 疫学要因	B-4-1)/総 I-6	〃
4	4/12	疫学	交絡とバイアス	B-4-1)/総 I-6	〃
5	4/19	疫学	疫学の研究方法 (記述疫学, 横断・縦断研究)	B-4-1)/総 I-6	〃
6	4/19	疫学	症例対照研究, オッズ比, 練習問題	B-4-1)/総 I-6	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
7	4/26	疫学	コホート研究, 相対危険, 寄与危険, 練習問題	B-4-1)/総 I-6	①
8	4/26	疫学	介入研究, 臨床試験	B-4-1)/総 I-6	〃
9	5/10	疫学	システマティックレビュー, RCT, EBM	B-4-1,2,3)/総 I-6	〃
10	5/10	疫学	スクリーニングテスト	B-4-1)/総 I-1	〃
11	5/17	疫学	スクリーニングテストの効率, 費用効果分析	B-4-1)/総 II-10	〃
12	5/17	疾病予防と健康管理	感染症の3要因	A-6-1,3)/総 I-7	〃
13	5/24	疾病予防と健康管理	感染症の予防	A-6-1,3)/総 I-7	〃
14	5/24	疾病予防と健康管理	生活習慣病, NCD	B-1,B-3-1)/必4-ア, イ	〃
15	5/31	中間試験	1~14回講義の範囲		〃
16	5/31	環境衛生	環境と生体, 公害(足尾銅毒, イタイイタイ病, 水俣病, 四日市ぜんそく)	B-2-4)/総 I-9	〃
17	6/7	環境衛生	地球環境保全, 条約	B-2-4)/総 I-9	〃
18	6/7	環境衛生	温熱環境, 空気の衛生	B-2-4)/総 I-9	〃
19	6/14	環境衛生	水の衛生(上水道)	B-2-4)/総 I-9	〃
20	6/14	環境衛生	水の衛生(下水道), 廃棄物処理	B-2-4)/総 I-9	〃
21	6/18	食品衛生	日本人の食事摂取基準	B-1)/総 I-8	〃
22	6/18	食品衛生	食中毒(微生物原因食中毒)	B-1)/総 I-8	〃
23	6/21	食品衛生	食中毒(自然毒)	B-1)/総 I-8	〃
24	6/21	人口問題	人口静態, 人口指数・割合	B-4-2)/総 I-6	〃
25	6/28	人口問題	人口動態(国民死因)	B-4-2)/総 I-6	〃
26	6/28	人口問題	人口動態(人口再生産)	B-4-2)/総 I-6	〃
27	7/5	口腔環境	口腔の発育と唾液の機能	B-3-2)/総 I-1	〃
28	7/5	口腔環境	口腔内不潔物の成り立ち	B-3-2)/総 I-1	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
29	7/12	口腔環境	口腔内不潔物の成り立ち	B-3-2)／総I-1	①
30	7/12	口腔環境	口腔内不潔物の病原性	B-3-2)／総I-1	〃
31	9/10	歯口清掃	ブラッシング法, 化学的清掃法, PTC	B-3-1)／必4-ウ, エ	②
32	10/1	齲蝕予防	口腔清掃の疫学指標	B-3-2)／総I-6	〃
33	10/15	齲蝕予防 3時間目実施 (保存修復学Iと交換)	小窩裂溝填塞	B-3-2)／総論Ⅷ-5	③
34	10/22	齲蝕予防	齲蝕活動性試験(リスク診査)	B-3-2)／総I-1	①
35	10/29	実習試験	環境衛生分野		〃
36	11/5	口臭	口臭の原因とその予防	B-3-2)／総IV-1, 各Ⅲ-5	〃
37	11/5	地域歯科保健	地域保健法と歯科保健	A-7-1)／必4-イ, 総I-1, 2	〃
38	11/12	地域歯科保健	母子保健法(用語, 手帳, 届出), 母子保健の概要(乳児死亡, 死産)	A-7-1)／必4-イ, 総I-1, 2	〃
39	11/19	地域歯科保健	母親の歯科保健母子保健法による法定健診	A-7-1)／必4-イ, 総I-1, 2	〃
40	11/26	地域歯科保健	母子保健法による法定健診	A-7-1)／必4-イ, 総I-1, 2	〃
41	12/3	実習試験	口腔衛生・統計分野		〃
42	12/10	地域歯科保健	学校歯科保健	A-7-1)／必4-イ, 総I-1, 2	〃
43	12/17	地域歯科保健	成人・老人保健, 特定健康診査, 歯周病検診	A-7-1)／必4-イ, 総I-1, 2	〃
44	12/18	地域歯科保健	産業歯科保健	A-7-1)／必4-イ, 総I-1, 2	〃
45	12/19	地域歯科保健	産業歯科医の役割, 障害者歯科保健, 災害時の歯科保健, 国際歯科保健協力	A-7-1)／必4-イ, 総I-1, 2	〃

口腔衛生学実習（後期・1単位）

科目責任者：廣瀬 公治（衛生・教授）

科目担当者：①廣瀬 公治（衛生）、②車田 文雄（衛生）、
③大橋 明石（衛生）、④南 健太郎（衛生）、
⑤結城 昌子（衛生）、⑥菊池 正樹（非常勤）、
⑦相馬 親良（非常勤）

1. 科目の概要

本実習では、人間の健康に影響を与える環境要因の測定と、地域歯科保健活動の軸をなす歯科疫学指標の収集について実習を通しその基本を習得することを目的に実施する。

2. 一般目標

集団における口腔疾患の状況を正しく分析・評価し、疾病予防のための方策を立案するための基本的技能を習得する。

3. 到達目標

- 1) 環境測定を行い評価できる。
- 2) 口腔内を適切な指標で評価できる。
- 3) 口腔清掃状況を評価し適切な指導を実施できる。
- 4) フッ化物応用とシーラントの基本的な手技を実施できる。
- 5) 統計分析の意義を説明できる。

4. 履修の進め方

実技を取り入れた実習形態で履修する。尚、全15回のうち8回は講義形式で履修する。

5. 履修の準備

実習項目について、口腔衛生学講義で学んだ内容を復習しておくこと。

6. 評価方法

- 1) 全出席を基本とする。講義振替時も実習として出席調査を行う。
- 2) 実施した実習のレポートはすべて提出する。
- 3) 環境衛生学分野と口腔衛生学・統計学分野の2つについて記述式の実習試験を行う。
- 4) 実習試験では再試験を行う。
- 5) 受検した実習試験の得点にレポート点を加えた得点が65点以上を合格とする。

7. 教本

荒川浩久 他 編「生活と健康－測定と評価法－」学建書院 2017.

8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1 2 3	9/5	講義 歯口清掃 齲蝕予防	歯磨剤、齲蝕の疫学、齲蝕の成因	B3/必4-U、各II-1	①
4 5 6	9/12	講義 齲蝕予防	フッ化物中毒、計算	B3/必4-U、各II-1	③
7 8 9	9/19	講義 齲蝕予防	フッ化物による齲蝕予防メカニズム、応用法	B3/必4-U、各II-1	〃
10 11 12	9/26	実習 環境衛生	3グループに編成し実習を行う。1. 温熱環境と空気の衛生 2. 水の衛生 3. 騒音と疲労	B-2-4)/総 I-9	① ⑤

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
13 14 15	10/3	実習 環境衛生	3グループに編成し実習を行う。1. 温熱環境と空気の衛生 2. 水の衛生 3. 騒音と疲労	B-2-4)/総 I-9	① ⑤
16 17 18	10/10	実習 環境衛生	3グループに編成し実習を行う。1. 温熱環境と空気の衛生 2. 水の衛生 3. 騒音と疲労	B-2-4)/総 I-9	〃
19 20 21	10/17	講義 歯科疫学指標 (硬組織)	歯科疾患実態調査の概要、DMF関連指標、齲蝕抑制率、CFI、計算問題	B4)/総 I-6	③
22 23 24	10/24	講義 歯科疫学指標 (歯周組織) 歯周病の予防 中間試験	硬組織診査、歯周組織診査（歯周組織）中間試験範囲は、9月5日～10月17日講義までの分	B4)/総 I-6	①
25 26 27	10/31	実習 口腔診査	硬組織診査、歯周組織診査	B4)/総 I-6	① ⑦
28 29 30	11/7	実習 齲蝕予防	齲蝕活動性試験、フッ化物の基礎実験、小窩裂溝填塞	B3/各II-1	〃
31 32 33	11/14	実習 歯口清掃	ブラッシング指導、口臭測定	B3/各II-1	① ⑤ ⑦
34 35 36	11/21	実習 統計演習	疫学統計演習	B-4-1, 2/総 I-6	⑤
37 38 39	11/28	講義 地域保健	母子歯科保健（3歳児健診）、学校保健、学校歯科保健	B-3-2)/総 I-2	①
40 41 42	12/5	講義 地域保健	成人・老人歯科保健、健康増進法事業、特定健康診査、産業保健の概要	B-2-2)/総 I-2、各V-4, 7, 8	〃
43 44 45	12/12	講義 総合まとめ実習再試験	後期のまとめ、演習環境衛生分野、口腔衛生・統計分野実習再試験（15時10分～16時20分）	A-7-1), B-2-4), B3, B4)/必2-4	〃

保存修復学Ⅰ（後期・2単位）

科目責任者：山田 嘉重（修復・准教授）

科目担当者：①山田 嘉重（修復）、②菊井 徹哉（修復）

1. 科目の概要

齲蝕、歯の破折および摩耗などにより生じた自然治癒しない硬組織実質欠損に対して、病変の進行を阻止して歯の生理学的機能を回復させるとともに、審美的にも調和する生体親和性のある修復方法を研究する分野が保存修復学である。

保存修復学Ⅰでは総括的項目や各種修復法に共通する原理と技術、特に齲蝕の診断、処置方法、窩洞形成の理論ならびにその問題点を講義する。板書、スライド、配布資料を用いた講義が主体となる。

2. 一般目標

齲蝕、非齲蝕性硬組織疾患による実質欠損を適切に治療するために、基礎知識として疾患の診断と処置方法、窩洞および各種修復法に共通する原理や基本的技術の理論を習得する。ディプロマ・ポリシーの2：創造力と探求心、5：知識と診断能力を養い各種硬組織疾患の診断や処置法など歯科治療の基礎となる項目を確実に履修することを目標とする。

3. 到達目標

- 1) 齲蝕、非齲蝕性硬組織疾患の病因と病態が説明できる。
- 2) エナメル質齲蝕。象牙質齲蝕、根面齲蝕の診査方法および治療方法が説明できる。
- 3) 切削機器、器具の名称と用途が説明できる。
- 4) 窩洞の分類、特徴および形成方法が説明できる。
- 5) 象牙質知覚過敏症、変色歯、破折歯の処置法が説明できる。
- 6) 歯髄障害の原因と対策を説明できる。
- 7) コンポジットレジン修復法の特徴・適応症や処置手順が説明できる。
- 8) グラスアイオノマーセメント修復法の特徴・適応症や処置手順が説明できる。

4. 履修の進め方

講義による学習の方法は以下のごとくである。

- 1) 講義は教科書の内容をシラバスの予定に従って行う。
- 2) 板書、スライド、配布資料等を使用して教科書の内容をよりわかりやすく解説する。
- 3) 学生は板書、スライドおよび配布資料に沿って独自に授業ノート等を作成し、要点および追加事項を記入する。
- 4) 学生は理解が不十分な点について適宜教員に質問して理解を深める。
- 5) 学生の授業の予習・復習の確認のため授業の前後で小試験を行うこともある。
- 6) 授業日程の間で中間試験を行い、学生各自の理解度の確認を行う。
- 7) 講義および復習を行った学習ノートは担当教員が必要に応じて履修状況を確認する。

5. 履修の準備（参考書）

シラバスを確認して、授業内容について事前に教科書を用いて予習を行う。(30分)

授業終了後、講義ノートや配布資料を用いてその日で行った講義内容を復習する。(30分から1時間程度)

6. 評価方法

講義期間中に中間試験（50%）、後期定期試験（50%）を行い、双方を評価資料（100%）として65点以上の得点で合格とする。

7. 教本

- 1) 千田 彰, 寺下正道, 寺中敏夫, 宮崎真至（編）「保存修復学 第6版」医歯薬出版 2013年版

2) 田上順次, 奈良陽一郎, 山本一世, 斎藤隆史（編）「保存修復学21 第5版」永末書店 2017年版

8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/10	保存修復学概論①	保存修復学の概念と目的, 歴史, 修復材料の一般的性質治療器械の変遷	E-3/必-12, 総Ⅷ-2	①
2	9/10	保存修復学概論②	保存修復の種類と適応症, 歯の構造と機能, 硬組織の加齢に伴う変化	E-3/総Ⅱ-5,	〃
3	10/1	硬組織疾患①	齲蝕, 齲蝕の病因と病態①	E-3/各Ⅱ-1	〃
4	10/1	硬組織疾患②	齲蝕の病因と病態②, 齲蝕の分類・表記	E-3/各Ⅱ-1	〃
5	10/15	硬組織疾患③	非齲蝕性硬組織疾患, 変色歯, 象牙質知覚過敏	E-3/必-8, 各Ⅱ-1	②
6	10/15	診断と治療計画①	医療面接, 硬組織疾患の検査法, 問題点の抽出	E-3/総Ⅴ-1, Ⅵ-1	〃
7	10/22	診断と治療計画②	治療計画, インフォームドコンセント	E-3/総Ⅶ-1	〃
8	10/22	硬組織切削	診療設備, 姿勢, 切削器具, 医療用レーザー等	D-1/総Ⅷ-2	〃
9	10/29	修復時の留意点①	象牙質・歯髄複合体の保護, 裏層・覆髄および仮封	E-3/各Ⅱ-1	①
10	10/29	修復時の留意点②	治療の前準備・修復補助法, 修復物の具備すべき条件	E-3/各Ⅱ-1	〃
11	11/5	窩洞①	窩洞の分類, 窩洞の構造と各部の名称, 窩洞の具備すべき条件①	E-3/各Ⅱ-1	②
12	11/5	窩洞②	窩洞の具備すべき条件②, 接着性修復と非接着性修復での窩洞の違い	E-3/各Ⅱ-1	〃
13	11/5	齲蝕の処置①	エナメル質齲蝕, 象牙質齲蝕	E-3/各Ⅱ-1	①

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
14	11/5	齲蝕の処置②	象牙質齲蝕, 根面齲蝕	E-3/各II-1	①
15	11/12	硬組織疾患 総括中間試験	齲蝕・非齲蝕性硬組織疾患の診査・診断・治療計画・窩洞形態	E-3/必-8, 各II-1	②
16	11/12	非齲蝕性硬組織疾患の処置①	tooth wear (歯の損耗)の処置	E-3/必-8, 各II-1	①
17	11/19	非齲蝕性硬組織疾患の処置②	象牙質知覚過敏症の処置	E-3/必-8, 各II-1	〃
18	11/19	非齲蝕性硬組織疾患の処置③	変色歯の処置	E-3/必-8, 各II-1	〃
19	11/26	非齲蝕性硬組織疾患の処置④	破折歯の処置	E-3/必-8, 各II-1	〃
20	11/26	非齲蝕性硬組織疾患の処置⑤	形態異常と歯列不正の処置	E-3/必-8, 各II-1	〃
21	12/3	歯冠修復法概論	硬組織疾患修復におけるMI概念, 直接修復法と間接修復法	E-3/各II-1	②
22	12/3	歯質接着システム①	歯面処理法と歯質接着	E-3/総VII-8, 各II-1	〃
23	12/10	歯質接着システム②	各種接着システムの特徴	E-3/総VII-8, 各II-1	〃
24	12/10	コンポジットレジン修復①	コンポジットレジン修復: 材料学, 適応症	E-3/総VII-5, 各II-1	〃
25	12/17	コンポジットレジン修復②	コンポジットレジン修復: 窩洞の特徴	E-3/各II-1	〃
26	12/17	コンポジットレジン修復③	コンポジットレジン修復: 臨床手順	E-3/各II-1	〃
27	12/18	コンポジットレジン修復④	コンポジットレジン修復: 修復の留意点	E-3/各II-1	〃
28	12/18	コンポジットレジン修復⑤	コンポジットレジン修復: 修復各論, 修復補助器具	E-3/各II-1	〃
29	12/19	ガラスアイオンマーセメント修復①	ガラスアイオンマーセメント(従来型・レジン添加型): 材料学	E-3/総VII-5, 各II-1	〃
30	12/19	ガラスアイオンマーセメント修復②	ガラスアイオンマーセメント修復の臨床手技適応症, ART法	E-3/各II-1	①

冠橋義歯補綴学Ⅰ（後期・1単位）

科目責任者：関根 秀志（イン・教授）

科目担当者：①関根 秀志（イン）、②清野 晃孝（病院）

1. 科目の概要

冠橋義歯補綴は歯科治療の中でも高頻度な治療法方であることから、安全かつ確実な治療を施すためには、顎口腔系諸器官の機能や形態に関する知識の修得のみならず、使用する機械の特徴や材料の性質についても把握する必要がある、かつ歯学全般の幅広い知識と熟練した技能が必要とされる。そこで、冠橋義歯補綴学Ⅰでは冠橋義歯の歴史と総論およびクラウンの種類、ブリッジの種類と構成などについて教授する。

2. 一般目標

歯冠部歯質欠損および少数歯欠損による咬合・咀嚼障害や審美障害を治療できるようになるために、クラウンおよびブリッジを応用した補綴法に必要な知識を修得する。

3. 到達目標

- 1) クラウンブリッジの歴史を説明する。
- 2) 冠橋義歯補綴学の意義と目的を説明する。
- 3) クラウンブリッジの要件を説明する。
- 4) クラウンの種類を説明する。
- 5) ブリッジの種類と校正を説明する。
- 6) インフォームドコンセントの考え方と成立要件を説明できる。
- 7) 冠橋義歯補綴治療に先立ち実施する前処置を説明できる。
- 8) 支台歯形成の目的と原則、手順を説明できる。

4. 履修の進め方

教科書を中心として、配布プリントとスライドによる視覚素材を用いて講義する。理解度を確認するために講義時間内に小テストを行う。

5. 履修の準備（参考書）

シラバスを確認して、今回の講義内容について教科書で予習を行う。また、講義後には小テストで間違った問題を中心に、教科書と講義内容を再度確認する。

6. 評価方法

定期試験で評価する。

7. 教本

教科書：矢谷博文 編「クラウンブリッジ補綴学第5版」
医歯薬出版

参考書：石橋寛二 編「クラウンブリッジテクニック」
医歯薬出版

8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/6	冠橋義歯補綴学の意義と目的	冠橋義歯補綴学の意義と目的	E-3-4)-(1)-①/各IV-3-ア	①
2	9/13	咬合・歯周組織の正常像	咬合・歯周組織の正常像	E-3-4)-(1)-①/必5-ア-e	②
3	9/20	咬合・咀嚼障害	咬合・咀嚼障害	E-3-4)-(1)-①/各IV-1-ア	〃
4	9/27	診察と診断と感染予防	冠橋義歯補綴に必要な診察項目と診断法および感染予防	E-3-4)-(1)-①/各IV-2-ア, イ, ウ	①

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
5	10/4	治療計画を左右する因子	治療計画を左右する局所・全身的因子	E-3-4)-(1)-①/各IV-2-エ	①
6	10/11	クラウンブリッジの要件	クラウンブリッジに求められる要件	E-3-4)-(1)-①/各IV-3-ア	〃
7	10/18	クラウンの種類と分類	クラウンの種類と分類	E-3-4)-(1)-②/各IV-3-ア	〃
8	10/25	ブリッジの種類と構成	ブリッジの臨床的意義, 構成要素, 種類と適応症	E-3-4)-(1)-②/各IV-3-ア	〃
9	11/1	クラウンブリッジの設計	ブリッジの支台歯, 支台装置とポンティックの選択	E-3-4)-(1)-②/各IV-3-ア	〃
10	11/8	インフォームドコンセント	インフォームドコンセントの基本的な考え方, 成立要件	E-3-4)-(1)-①/必1-イ-a	〃
11	11/15	前処置	冠橋義歯補綴治療に先立ち実施する前処置の意義, 種類	E-3-4)-(1)-③, ④/各IV-3-イ-a	〃
12	11/22	支台歯形成①	支台歯形成の原則と支台歯の基本形態	E-3-4)-(1)-③, ④/各IV-3-イ-b, c	〃
13	11/29	支台歯形成②	全部被覆冠の支台歯形成	E-3-4)-(1)-③, ④/各IV-3-イ-b, c	〃
14	12/6	支台歯形成③	部分被覆冠の支台歯形成	E-3-4)-(1)-③, ④/各IV-3-イ-b, c	〃
15	12/13	冠橋義歯補綴学Ⅰまとめ	冠橋義歯補綴学Ⅰの講義内容全体の復習	E-3-4)-(1)/各IV-3	〃

有床義歯補綴学Ⅰ（後期・3単位）

科目責任者：山森 徹雄（有床・教授）

科目担当者：①山森 徹雄（有床）、②田中みか子（非常勤）

1. 科目の概要

有床義歯には歯の部分欠損に対する部分床義歯と全部欠損（無歯顎）に対する全部床義歯がある。有床義歯補綴学Ⅰでは全部床義歯補綴学を学習する。全部床義歯は上下顎の一方または両方の歯を喪失した症例に対して装着される義歯で、人工歯列を付与することにより顎顔面および口腔の形態、機能、審美性を回復するとともに、患者の健康を維持・増進する補綴装置である。ここでは全部床義歯を製作・装着するための理論を学ぶ。

2. 一般目標

無歯顎患者の健康を維持・増進させるために、全部床義歯の臨床的意義を理解し、全部床義歯を製作・装着するための知識を修得する。

3. 到達目標

- 1) 無歯顎の特徴を説明する。
- 2) 全部床義歯の維持力発現の因子を説明する。
- 3) 全部床義歯の製作過程を説明する。
- 4) 無歯顎の診察・検査・診断法および治療計画の立て方を説明する。
- 5) 前処置の内容と方法を説明する。
- 6) 全部床義歯の維持・支持に関する要因を説明する。
- 7) 全部床義歯の製作過程における理論を説明する。
- 8) 全部床義歯に付与する咬合の理論と平衡咬合を得るための削合を説明する。
- 9) 全部床義歯のメンテナンスに対する考え方を説明する。
- 10) 全部床義歯装着後の異常経過と疾病を説明する。

4. 履修の進め方

講義室において、スライド、プリントなどを用い、講義を中心とした学習を行う。

5. 履修の準備（参考書）

予習：有床義歯学に関連する基礎科目として、口腔解剖学、口腔生理学、生体材料学の講義・実習を通して学んだ内容を復習して講義に臨む。(30分)

復習：講義内容を当日中に必ず復習し、講義中に指示のあった箇所および理解が不十分な項目については講義ノート、配布資料、教科書により自己学習を行う。(60分以上)

参考書：日本補綴歯科学会編：歯科補綴学専門用語集 第4版 医歯薬出版 2015

6. 評価方法

中間試験（40%）、後期定期試験（50%）および出席状況（10%）により行う。

7. 教本

市川哲雄 他編：無歯顎補綴治療学 第3版 医歯薬出版 2016

8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/4	無歯顎の特徴	無歯顎の成り立ちと無歯顎の特徴を学ぶ	E-3-4) / 各 IV-1-ア～オ	①
2	9/4	全部床義歯の特徴	全部床義歯の構成要素と特徴を学ぶ	E-3-4) / 各 IV-5-ア	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
3	9/10	全部床義歯の物理的維持	全部床義歯の維持をもたらす物理的因子を学ぶ	E-3-4) / 各 IV-5-ア	①
4	9/10	全部床義歯の解剖的維持	全部床義歯の維持をもたらす解剖的因子を学ぶ	E-3-4) / 各 IV-5-ア	〃
5	9/10	全部床義歯の支持と安定	全部床義歯の支持と安定に影響を及ぼす因子	E-3-4) / 各 IV-5-ア	〃
6	9/11	全部床義歯の製作過程	全部床義歯の製作過程・製作手順を学ぶ	E-3-4) / 各 IV-5-ア	〃
7	9/11	全部床義歯の製作過程	全部床義歯の製作過程の概要を学ぶ	E-3-4) / 各 IV-5-イ, ウ	〃
8	9/18	無歯顎の診察・検査	無歯顎の診察・検査項目を学ぶ	E-3-4) / 各 V-2-ア～エ	〃
9	9/18	無歯顎の診断基準と治療計画	無歯顎の診断基準と治療計画立案を学ぶ	E-3-4) / 各 V-2-ア～エ	〃
10	9/25	前処置	無歯顎補綴治療の前処置を学ぶ	E-3-4) / 各 IV-5-イ, ウ	〃
11	9/25	無歯顎の筋圧形成	無歯顎の筋圧形成方法・根拠を学ぶ	E-3-4) / 各 IV-5-イ, ウ	〃
12	10/1	無歯顎の印象	印象材の種類、印象方法を学ぶ	E-3-4) / 各 IV-5-イ, ウ	〃
13	10/1	作業用模型と咬合床	作業用模型、咬合床の製作における要点を学ぶ	E-3-4) / 各 IV-5-イ, ウ	〃
14	10/1	咬合採得の進め方	全部床義歯製作のための咬合採得の概要を学ぶ	E-3-4) / 各 IV-5-イ, ウ	〃
15	10/2	仮想咬合平面の設定	仮想咬合平面の決定法について学ぶ	E-3-4) / 各 IV-5-イ, ウ	〃
16	10/2	垂直的顎間関係の決定1記録	形態的根拠に基づく垂直的顎間関係の決定について学習する	E-3-4) / 各 IV-5-イ, ウ	〃
17	10/9	垂直的顎間関係の決定2記録	機能的根拠に基づく垂直的顎間関係の決定法について学習する	E-3-4) / 各 IV-5-イ, ウ	〃
18	10/9	水平的顎間関係の記録1記録	器具を使用しない水平的顎間関係の記録法	E-3-4) / 各 IV-5-イ, ウ	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
19	10/15	水平的顎間関係の記録2	特殊な器具を使用する水平的顎間関係の記録法	E-3-4) / 各IV-5-イ,ウ	①
20	10/15	下顎運動の記録法	二次元的, 三次元的下顎運動の記録法	E-3-4) / 各IV-5-イ,ウ	〃
21	10/15	顔弓と咬合器1	顔弓を用いた咬合器装着法と咬合器の調節法	E-3-4) / 各IV-5-イ,ウ	〃
22	10/16	顔弓と咬合器2	顔弓を用いた咬合器装着法と咬合器の調節法	E-3-4) / 各IV-5-イ,ウ	〃
23	10/16	前歯部人工歯の選択	前歯部人工歯の種類と選択法を学ぶ	E-3-4) / 各IV-5-イ,ウ	〃
24	10/22	前歯部人工歯の排列	前歯部人工歯の排列基準と排列法を学ぶ	E-3-4) / 各IV-5-イ,ウ	〃
25	10/22	臼歯部人工歯の選択	臼歯部人工歯の種類と選択法を学ぶ	E-3-4) / 各IV-5-イ,ウ	〃
26	10/22	臼歯部人工歯の排列	臼歯部人工歯の排列の基本原則を学ぶ	E-3-4) / 各IV-5-イ,ウ	〃
27	10/23	全部床義歯に付与する咬合様式	全部床義歯に付与する咬合様式を学ぶ	E-3-4) / 各IV-5-イ,ウ	〃
28	10/23	歯肉形成	歯肉形成の原則と実際を学ぶ	E-3-4) / 各IV-5-イ,ウ	〃
29	10/29	蠟義歯の口腔内試適	蠟義歯の口腔内試適時の検査事項を学ぶ	E-3-4) / 各IV-5-イ,ウ	〃
30	10/29	埋没	蠟義歯の埋没方法を学ぶ	E-3-4) / 各IV-5-イ,ウ	〃
31	10/29	重合	義歯床用レジンの重合法を学ぶ	E-3-4) / 各IV-5-イ,ウ	〃
32	10/30	研磨	義歯床用レジンの研磨方法を学ぶ	E-3-4) / 各IV-5-イ,ウ	〃
33	10/30	咬合器再装着	重合義歯の咬合器再装着の目的と方法を学ぶ	E-3-4) / 各IV-5-イ,ウ	〃
34	11/6	削合	選択削合と自動削合の理論と実際を学ぶ	E-3-4) / 各IV-5-イ,ウ	〃
35	11/6	義歯装着	完成義歯の試適, 装着時の留意事項を学ぶ	E-3-4) / 各IV-5-イ,ウ	〃
36	11/13	中間試験	総括的評価の一部として中間試験を受ける		〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
37	11/13	義歯装着時の患者教育	義歯装着時に患者へ説明・指導する内容を学ぶ	E-3-4) / 各IV-5-イ,ウ	①
38	11/20	義歯装着後の経過	義歯装着後に生じる異常事項と対応を学ぶ	E-3-4) / 各IV-8-オ	②
39	11/20	義歯の修理	装着後の破損と修理方法を学ぶ	E-3-4) / 各IV-8-オ	〃
40	11/27	リラインとリベース	全部床義歯のリライン, リベースを学ぶ	E-3-4) / 各IV-8-オ	①
41	11/27	オーバーデンチャー	オーバーデンチャーの特徴, 適応症, 製作法	E-3-4) / 各V-2-ア~エ	〃
42	12/4	特殊な義歯	暫間義歯, 即時義歯, 治療用義歯, 移行義歯	E-3-4) / 各V-2-ア~エ	②
43	12/4	金属床義歯	金属床義歯の特徴と製作法を学ぶ	E-3-4) / 各V-2-ア~エ	〃
44	12/11	口蓋補綴	口蓋裂患者の補綴方法と機能回復を学ぶ	E-3-4) / 各V-2-ア~エ	①
45	12/11	顎補綴	顎欠損に対する顎義歯の特徴を学ぶ	E-3-4) / 各V-2-ア~エ	〃

有床義歯補綴学Ⅰ実習（後期・1単位）

科目責任者：山森 徹雄（有床・教授），田中みか子（非常勤）

科目担当者：①山森 徹雄（有床），②松本 知生（有床），
③浅井 政一（非常勤），④高玉 典彦（非常勤），
⑤海老原寛子（非常勤），⑥関根 貴仁（非常勤），
⑦和田 裕一（非常勤），⑧伊藤 隼（非常勤）

1. 科目の概要

有床義歯補綴学Ⅰで理解した無歯顎補綴の理論と全部床義歯を製作・装着するための基本的技術を模型実習を通して修得する。歯科医療における技術とは、「理論を实践する技」であるとの認識に立ち、単に全部床義歯の製作過程・操作を覚えることにとどまらず、背景にある理論を併せて学ぶ。

2. 一般目標

無歯顎患者の健康を維持・増進させるために、全部床義歯を製作・装着するための技術を修得するとともに、その背景にある理論を学ぶ。

3. 到達目標

- 1) 咬合床の役割と咬合堤の標準的寸法に関する知識を基に、咬合床を製作する。
- 2) 模型を咬合器に装着する方法に関する知識を基に、咬合器を調節する。
- 3) 人工歯排列の基本的原則に則り、咬合堤に人工歯を排列する。
- 4) 回復すべき歯肉形態に関する知識を基に、自然観のある歯肉形態を形成する。
- 5) 蠟義歯をフラスクに埋没する。
- 6) 義歯床用レジンの成形法と重合法に関する知識を基に、レジンを填入・重合する。
- 7) 完成義歯を咬合器に再装着する意義と方法に関する知識を基に、咬合器に再装着する。
- 8) 両側性平衡咬合における咬合接触関係に関する知識を基に、人工歯を削合する。
- 9) 義歯の研磨操作をする。

4. 履修の進め方

無歯顎模型を用いた全部床義歯の製作過程を通して、無歯顎患者を治療するための理論的背景と技術を学習する。実習は中央棟5階の模型実習室において、小人数のグループに分かれてチューターから個別指導を受ける。実習の進行は実習マニュアルに沿って計画的に実施される。

5. 履修の準備（参考書）

予習：有床義歯学に関連する基礎科目として、口腔解剖学、口腔生理学、生体材料学の講義・実習を通して学んだ内容および有床義歯学Ⅰの講義内容を良く理解する。また事前に配布される実習プリント、教科書の関連範囲を熟読して実習に臨む。（60分）

復習：実習内容および実習講義の内容を当日中に必ず復習し、理解が不十分な項目については実習プリント、教科書により自己学習を行う。（30分）

6. 評価方法

実技試験（40%）、製作物（40%）、実習毎の小テスト（10%）および出席状況（10%）により行う。

7. 教本

細井紀雄 他編：コンプリートデンチャーテクニク 第6版 医歯薬出版 2011年

8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/4	基準線の記入	模型に外形線・歯槽頂線を記入する	E-3-4) / 各 IV-5-ア	① ⑧
2	9/11	上顎模型の咬合器装着	咬合採得し、上顎模型を咬合器に装着	E-3-4) / 各 IV-5-ウ	〃
3	9/18	下顎模型の咬合器装着	顎間関係の記録をもとに下顎模型を咬合器に装着	E-3-4) / 各 IV-5-ウ	〃
4	9/25	人工歯排列1	上顎前歯部の人工歯を排列する	E-3-4) / 各 IV-5-ウ	〃
5	10/2	人工歯排列2	上顎臼歯部の人工歯を排列する	E-3-4) / 各 IV-5-ウ	〃
6	10/9	人工歯排列3	下顎前歯部の人工歯を排列する	E-3-4) / 各 IV-5-ウ	〃
7	10/16	人工歯排列4	下顎臼歯部の人工歯を排列する	E-3-4) / 各 IV-5-ウ	〃
8	10/23	歯肉形成1	唇・頬側歯肉を形成する	E-3-4) / 各 IV-5-ウ	〃
9	10/30	歯肉形成2	口蓋側・舌側歯肉を形成する	E-3-4) / 各 IV-5-ウ	〃
10	11/6	歯型の採得	咬合器再装着するためのテンチの歯型を採得	E-3-4) / 各 IV-5-ウ	〃
11	11/13	フラスク埋没	フラスクに蠟義歯を埋没し、流蠟する	E-3-4) / 各 IV-5-ウ	〃
12	11/20	レジン填入・重合・割り出し	レジンを混和・填入・重合し、義歯を割り出す	E-3-4) / 各 IV-5-ウ	〃
13	11/27	咬合器再装着・削合	重合した義歯を咬合器に再装着し、削合を行う	E-3-4) / 各 IV-5-ウ	〃
14	12/4	仕上げ研磨、提出準備	義歯の仕上げ研磨を行い、提出の準備をする	E-3-4) / 各 IV-5-ウ	〃
15	12/11	提出、実技試験	製作物を提出し、人工歯排列の実技試験を受ける	E-3-4) / 各 IV-5-ウ	〃

口腔外科学 I (通年・2単位)

科目責任者：金 秀樹 (外科・准教授)

科目担当者：①金 秀樹 (外科)，②川原 一郎 (外科)，
③御代田 駿 (外科)，④小嶋 忠之 (外科)

1. 科目の概要

口腔外科学とは顎・口腔領域（口唇，頬粘膜，歯肉，口底，舌，口蓋などの軟組織と上・下顎骨とそれに植立する歯などの硬組織および隣接する顎関節，唾液腺，所属リンパ節など）口唇，頬粘膜，歯肉，口底，舌，口蓋などの軟組織と上・下顎骨とそれに植立する歯，の硬組織および隣接する顎関節，唾液腺，所属リンパ節などに生じる各種疾患（先天異常，後天異常，損傷，炎症，嚢胞，腫瘍，血液疾患，顎関節疾患，唾液腺疾患，口腔粘膜疾患，神経疾患など）を正しく診断し，外科療法を主体とした適切な治療法を行うとともに，失われた形態と口腔機能の回復を図るための理論と技術を研究する学問であり，臨床歯科医学のなかで特に広範囲な診療科目として体系づけられている。したがって，口腔および口腔に関連する組織・器官の正常な形態と機能を理解するとともに，技能を獲得するための基礎と臨床を含めた歯科医学と隣接医学の幅広い知識が必要である。

2. 一般目標

口腔外科学 I では，顎・口腔領域の疾患に罹患した患者の健康維持・増進を図るために，1) 手術総論，小手術の知識，2) 症性疾患，3) 腔粘膜疾患，4) 血液疾患，5) 損傷，6) 全身疾患と口腔病態（口腔・顔面に症状を現す全身疾患）の基礎的および臨床的な知識を習得する。

3. 到達目標

- 1) 消毒法および切開，止血，縫合の種類と器具，基本術式を説明する。
- 2) 外科処置と全身疾患との関連を理解し説明する。
- 3) 炎症性疾患の分類と症状を説明する。
- 4) 口腔粘膜疾患の分類と特徴を概説し診断と治療法を説明する。
- 5) 血液疾患の分類と特徴を概説し診断と治療法を説明する。
- 6) 損傷の分類と症状を概説し診断と治療法を説明する。
- 7) 全身疾患と口腔病態の種類と症状を概説し診断と治療法を説明する。

4. 履修の進め方

文書視覚媒体と投影視覚媒体を用いて講義する。

5. 履修の準備 (参考書)

下野正基，野間弘康，山根源之 編集 「口腔外科・病理診断アトラス」 医歯薬出版 2006年

6. 評価方法

定期試験で評価する。

7. 教本

野間弘康，瀬戸皖一 監修 「標準口腔外科学」 第4版 医学書院 2015年

8. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号，国：国家試験出題基準，担：担当教員)

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/10	手術総論および小手術1	手術用器具と材料の滅菌，術者の手指の消毒	E-1-4/総VII-4-ア	④
2	4/16	手術総論および小手術2	切開の器具，切開法，縫の材料・器具，縫合法	E-1-4/総VII-4-ア	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
3	4/17	手術総論および小手術3	出血の種類，止血法	E-1-4/総VII-4-ア	④
4	4/24	手術総論および小手術4	有病者(全身疾患を有する患者)に対する観血処置の問題点	E-1-4/総VII-4-ア	〃
5	5/8	炎症性疾患1	歯冠周囲炎，歯周組織炎，蜂巣炎，所属リンパ節炎の診断	E-2-4/各III-1-ウ	①
6	5/15	炎症性疾患2	歯冠周囲炎，歯周組織炎，蜂巣炎，所属リンパ節炎の治療	E-2-4/各III-1-ウ	〃
7	5/22	炎症性疾患3	顎骨炎，歯性上顎洞炎の診断	E-2-4/各III-2-エ	〃
8	5/29	炎症性疾患4	顎骨炎，歯性上顎洞炎の治療	E-2-4/各III-2-エ	〃
9	6/4	炎症性疾患5	骨髄炎，放射線性骨壊死と放射線性骨髄炎の診断と治療	E-2-4/各III-2-エ	〃
10	6/5	炎症性疾患6	顎部放線菌症，口腔結核，口腔梅毒の口腔症状と診断と治療	E-2-4/各III-1-ウ	〃
11	6/12	炎症性疾患7	菌血症，敗血症の診断と治療	E-2-4/各III-1-ウ	〃
12	6/19	口腔粘膜疾患1	水疱，紅斑・びらんを主徴とする疾患の診断と治療	E-2-4/各III-1-ク	〃
13	6/26	口腔粘膜疾患2	潰瘍，白斑，色素沈着を主徴とする疾患の診断と治療	E-2-4/各III-1-ク	〃
14	7/3	口腔粘膜疾患3	舌炎および類似疾患の診断と治療	E-2-4/各III-1-ク	〃
15	7/10	口腔粘膜疾患4	口唇炎および類似疾患の診断と治療	E-2-4/各III-1-ク	〃
16	9/7 2限	血液疾患1	造血と血液機能，止血機能，血液検査と鑑別，診断	E-2-4 各III-4-サ	②
17	9/21 2限	血液疾患2	貧血の診断と治療	E-2-4 各III-4-ク	〃
18	9/21 3限	血液疾患3	白血病の診断と治療	E-2-4 各III-4-ケ	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
19	10/5 2限	血液疾患4	血小板, 凝固因子, 血管, 線溶系異常の各疾患の診断と治療	E-2-4 各Ⅲ-4-コ	②
20	10/5 3限	損傷1	歯の脱臼, 歯の破折に対する診断と治療	E-2-4 各Ⅲ-2-ウ	③
21	10/19 2限	損傷2	軟組織損傷に対する診断と治療	E-2-4 各Ⅲ-2-ウ	〃
22	10/19 3限	損傷3	骨折の診断	E-2-4 各Ⅲ-2-ウ	〃
23	11/2 2限	損傷4	骨折の治療	E-2-4 各Ⅲ-2-ウ	〃
24	11/2 3限	全身疾患と口腔病態1	口腔・顎顔面領域に症状を現す症候群	E-2-4 各Ⅲ-4-ア	①
25	11/16 2限	全身疾患と口腔病態2	感染症の診断と治療	E-2-4 各Ⅲ-4-イ	〃
26	11/16 3限	全身疾患と口腔病態3	免疫不全, 免疫疾患の診断	E-2-4 各Ⅲ-4-エ	〃
27	11/30 2限	全身疾患と口腔病態4	免疫不全, 免疫疾患の治療	E-2-4 各Ⅲ-4-オ	〃
28	11/30 3限	全身疾患と口腔病態5	内分泌障害の診断と治療	E-2-4 各Ⅲ-4-カ	〃
29	12/14 2限	全身疾患と口腔病態6	代謝異常の診断と治療	E-2-4 各Ⅲ-4-カ	〃
30	12/14 3限	全身疾患と口腔病態7	栄養障害の診断と治療	E-2-4 各Ⅲ-4-キ	〃

口腔内科学 (通年・2単位)

科目責任者：高田 訓 (外科・教授)

科目担当者：①高田 訓 (外科)，②小嶋 忠之 (外科)，
③中江 次郎 (非常勤)，④小坂橋 勉 (非常勤)

1. 科目の概要

口腔内科学は、2014年度から正式に標記され取り入れた科目である。現在、奥羽大学歯学部附属病院にも口腔内科として外来が開設されている。1980年代はオーラルメディスンや口腔診断学の概念が強く、口腔疾患の診断がメインと思われがちな科目であった。近年は、全身疾患や心身医学的疾患に関する知識、口腔機能や栄養サポート、院内感染や感染予防、様々な臨床検査や放射線学的診断、口腔病理診断も加えた広範囲で総合的な医学的知識による診断能力を必要とする科目であり、内科的治療の必要性が高い超高齢社会の我が国にとって必要不可欠な科目である。

2. 一般目標

社会の変化や新知見に伴って概念が変わりつつある口腔疾患を広い視野で診断し、全身疾患を把握して他職種と連携して患者個々のニーズに合わせた治療方針を立案できるようにするために、各種疾患を理解して診査・診断・治療法を学ぶ。

3. 到達目標

- 1) 口腔内科学の定義・役割を学ぶ。
- 2) 診断の進め方を理解する。
- 3) 臨床検査とその意義を理解する。
- 4) 口腔疾患に対する治療法を理解する。
- 5) 全身疾患と口腔疾患との関連を理解する。
- 6) 医療連携と他職種連携を理解する。
- 7) 器質的変化を伴う疾患を理解し、診断する。
- 8) 器質的変化を伴わない疾患を理解し、診断する。
- 9) 口腔機能を理解し、患者のニーズを知る。
- 10) 医療安全と感染対策を理解する。

4. 履修の進め方

他の科目に比べ新しい科目ではあるが、歯学教育モデル・コア・カリキュラムにも診療参加型臨床実習に必要な内容として記載されている。通年30コマのうち、前期15コマは口腔領域に関連した疾患の概要を理解し、様々な疾患名を記憶に残すことを目的に講義形式で履修を進める。後期15コマも講義形式で行うが、臨床における口腔内科の現状を供覧する。

30コマを通じて口腔内科学の教本に沿って授業をすすめる。

5. 履修の準備 (参考書)

口腔内科学は教本に示した口腔内学 (末永書店) の内容のみならず、基礎系科目の口腔解剖、口腔組織、口腔生化、口腔生理、歯科薬理、口腔病理、口腔感染免疫などの基本的な知識とともに修得していく必要がある。特に口腔粘膜疾患や口腔外科学で履修する各疾患、更に歯科口腔心身症や全身疾患とも密接に関連するので、口腔外科学第3版や標準口腔外科学第4版も参考に履修するのが望ましい。また、口腔疾患の診断のために必要な臨床検査や心身医学的検査、放射線診断能力や口腔病理学的診断能力など、広い知識をバランス良く頭に入れておく必要がある。

6. 評価方法

各期の試験形式はMCQ (40～50問) を8割以上、論述を2割未満の配点で作成する。なお、再試験は65点未満の不合格者に実施する。追試験は正式な欠席理由による届出 (教務課) を要し、追試験に対する再試は実施しない。最終評価は前・後期の本試・追試・再試および中間試験の結果 (すべての平均点)、65点以上の者を合格とする。

7. 教本

口腔内科学 末永書店 2016年

8. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	4/6	口腔内科とは	口腔内科の定義と役割	E-2/必, 総 IV, VI, VIII, IX, X	①
2	4/13	診査・診断-1	インフォームドコンセントと診査・診断の進め方	E-2/必, 総 IV, VI, VIII, IX, X	〃
3	4/20	診査・診断-2	他職種連携・病診連携	E-2/必, 総 IV, VI, VIII, IX, X	〃
4	4/27	臨床検査-1	血液・尿・生化学・免疫学的検査	E-2/必, 総 IV, VI, VIII, IX, X	②
5	5/7	臨床検査-2	呼吸器・循環器・病理学的検査 (月曜：4限目)	E-2/必, 総 IV, VI, VIII, IX, X	〃
6	5/11	臨床現状-1	外部講師による講演	E-2/必, 総 IV, VI, VIII, IX, X	② ③
7	5/18	臨床現状-2	外部講師による講演	E-2/必, 総 IV, VI, VIII, IX, X	〃
8	5/25	臨床現状-3	外部講師による講演	E-2/必, 総 IV, VI, VIII, IX, X	② ④
9	6/1	臨床現状-4	外部講師による講演	E-2/必, 総 IV, VI, VIII, IX, X	〃
10	6/8	顎口腔機能検査-1	唾液・味覚検査	E-2/必, 総 IV, VI, VIII, IX, X	①
11	6/15	顎口腔機能検査-2	嚥下・咀嚼・生理学的検査	E-2/必, 総 IV, VI, VIII, IX, X	〃
12	6/22	治療学-1	薬物療法・理学療法	E-2/必, 総 IV, VI, VIII, IX, X	〃
13	6/29	治療学-2	治療の障害になる疾患	E-2/必, 総 IV, VI, VIII, IX, X	〃
14	7/6	治療学-3	終末期医療・ランディング	E-2/必, 総 IV, VI, VIII, IX, X	〃
15	7/13	まとめ	前期15コマ総括	E-2/必, 総 IV, VI, VIII, IX, X	〃
16	9/7	前期フィードバック	中間試験	E-2/必, 総 IV, VI, VIII, IX, X	〃
17	9/14	全身疾患との関連-1	血液疾患・脳卒中	E-2/必, 総 IV, VI, VIII, IX, X	②

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
18	9/21	全身疾患との 関連－2	循環器・呼吸 器・肝臓・腎 臓疾患	E-2/必, 総 IV, VI, VIII, IX, X	①
19	9/28	全身疾患との 関連－3	代謝・内分泌 疾患	E-2/必, 総 IV, VI, VIII, IX, X	〃
20	10/5	全身疾患との 関連－4	アレルギー・ 自己免疫疾 患・感染症	E-2/必, 総 IV, VI, VIII, IX, X	〃
21	10/12	口腔疾患各論 －1	炎症性疾患	E-2/必, 総 IV, VI, VIII, IX, X	②
22	10/19	口腔疾患各論 －2	皮膚・粘膜疾 患	E-2/必, 総 IV, VI, VIII, IX, X	〃
23	10/26	口腔疾患各論 －3	唾液腺疾患	E-2/必, 総 IV, VI, VIII, IX, X	①
24	11/2	口腔疾患各論 －4	嚢胞・腫瘍	E-2/必, 総 IV, VI, VIII, IX, X	②
25	11/9	口腔疾患各論 －5	神経疾患	E-2/必, 総 IV, VI, VIII, IX, X	①
26	11/16	口腔疾患各論 －6	歯科口腔心身 症	E-2/必, 総 IV, VI, VIII, IX, X	〃
27	11/30	口腔疾患各論 －7	顎関節疾患	E-2/必, 総 IV, VI, VIII, IX, X	②
28	12/7	医療現場と環 境－1	口腔機能と睡 眠障害	E-2/必, 総 IV, VI, VIII, IX, X	①
29	12/14	医療現場と環 境－2	医療安全と感 染症対策	E-2/必, 総 IV, VI, VIII, IX, X	〃
30	12/21	まとめ	前期・後期30 コマ 総括	E-2/必, 総 IV, VI, VIII, IX, X	〃

歯科放射線学 I (後期・2単位)

科目責任者：原田 卓哉 (放射・教授)

科目担当者：①原田 卓哉 (放射), ②茂呂祐利子 (放射)

1. 科目の概要

放射線の医学利用には放射線診断や放射線治療があり、患者に利益をもたらしている一方で、被曝による危険も共存しています。放射線利用には、知識や技術的なことはもちろん、良識のある放射線診療・インフォームドコンセントも重要になります。

歯科放射線学は基礎放射線学として放射線物理学、放射線生物学、放射線化学を、また臨床放射線学として放射線診断学、放射線治療学、放射線防護学を学びます。基礎放射線学では、放射線の基礎的知識やその生物学的影響を学び、臨床放射線学では放射線を利用した画像診断、放射線治療に必要な撮影技術、腫瘍治療学さらに放射線防護について学びます。

2. 一般目標

- 1) 歯科医療に必要な放射線を有効かつ安全に利用するために、放射線の取り扱いに関する知識、技術および態度を修得する。
- 2) 歯科領域の画像検査を適切に実施するために、画像検査の種類、特徴、技術および適応を理解する。

3. 到達目標

- 1) 電離放射線の種類、性質および単位について述べる。
- 2) 放射線の生体に対する影響について述べる。
- 3) エックス線画像形成について述べる。
- 4) 口内法エックス線撮影について述べる。
- 5) パノラマエックス線撮影について述べる。
- 6) 口外法エックス線撮影について述べる。
- 7) 特殊撮影について述べる。

4. 履修の進め方

- 1) 講義、示説で学習する。
- 2) 文書、視覚媒体を用いる。
- 3) 投影視覚媒体を用いる。

5. 履修の準備 (参考書)

予習：教科書の熟読を中心に予習する。(60分)

復習：教科書および講義ノートの振り返りにより復習する。(60分)

参考書：

金田 隆 他著「新歯科放射線学」医学情報社 2017年
日本歯科放射線学会編「歯科臨床における画像診断アトラス」医歯薬出版 2008年

6. 評価方法

定期試験で評価する。評価基準：定期試験100%により評価する。

試験方法：筆記試験。形式：多肢選択形式および記述式。

範囲：講義内容全範囲。

7. 教本

岡野友宏 他「歯科放射線学 第5版」医歯薬出版 2013年

佐野 司 編「歯科放射線マニュアル」南山堂 2006年

8. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/5	電離放射線	原子とその構造, 電離と励起, 電離放射線	E-1-2) / 総VI-2	①

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
2	9/5	画像検査法の選択	病歴の取り方, 画像検査のための推定診断	E-1-1) / 総V-1	①
3	9/12	放射線の線量と単位	放射線の種類と分類, 線量, 放射能, エネルギー	E-1-2) / 総VI-2	〃
4	9/12	口内法撮影	口内法撮影の原理, 水平的角度, 垂直的角度	E-1-2) / 総VI-2	②
5	9/19	エックス線の特徴	エックス線と物質との相互作用, 物質透過作用, 電離作用, 写真作用	E-1-2) / 総VI-2	①
6	9/19	パノラマエックス線撮影	パノラマ撮影の原理, 断層域, 障害陰影	E-1-2) / 総VI-2	〃
7	9/26	エックス線撮影装置 1	エックス線の発生原理, エックス線管	E-1-2) / 総VI-2	〃
8	9/26	頭部エックス線撮影	後頭前頭方向撮影法, 側方向撮影法, 軸方向撮影法	E-1-2) / 総VI-2	〃
9	10/3	エックス線撮影装置 2	口内法撮影装置, パノラマエックス線撮影装置	E-1-2) / 総VI-2	〃
10	10/3	顎関節, セファロ	顎関節撮影法, 頭部エックス線規格撮影法 (セファログラム)	E-1-2) / 総VI-2	〃
11	10/10	デジタルエックス線撮影装置	デジタルデータの意義, デジタルエックス線撮影装置	E-1-2) / 総VI-2	〃
12	10/10	断層撮影, 造影撮影	断層撮影の概要, 造影剤の種類, 造影剤の具備すべき条件	E-1-2) / 総VI-2	〃
13	10/17	エックス線フィルム, 増感紙	エックス線フィルムおよび増感紙の構造および種類	E-1-2) / 総VI-2	〃
14	10/17	エックス線 CT 1	エックス線 CT 装置の構造と役割	E-1-2) / 総VI-2	〃
15	10/24	エックス線写真処理	現像 (広義) の定義, 現像の手順と意義, 使用薬剤の意義	E-1-2) / 総論VI-2	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
16	10/24	エックス線CT 2	組織のエックス線吸収率とCT値との関係	E-1-2) / 総VI-2	①
17	10/31	画像形成	潜像核, 潜像, 金属銀の生成半影, 幾何学的関係	E-1-2) / 総VI-2	〃
18	10/31	MRI原理 1	MRIの概要, 原子核のスピン, 共鳴	E-1-2) / 総VI-2	〃
19	11/7	コントラスト	エックス線コントラスト, 特性曲線(黒化度曲線)	E-1-2) / 総VI-2	〃
20	11/7	MRI原理 2	縦緩和(スピン-格子緩和), 横緩和(スピンスピン緩和)	E-1-2) / 総VI-2	〃
21	11/14	鮮鋭度と解像力, 画質	画質の定義, 画質を低下する因子	E-1-2) / 総VI-2	〃
22	11/14	MRI特徴	組織性状および病変と信号強度の関係撮影禁忌	E-1-2) / 総VI-2	〃
23	11/21	被曝, 生体への影響	放射線の種類による影響, 人体への影響	E-1-2) / 総VI-2	〃
24	11/21	超音波検査 1	超音波検査の概要, 超音波検査装置	E-1-2) / 総VI-2	〃
25	11/28	生物学的作用	組織の放射線感受性, 放射線障害	E-1-2) / 各VI-2	〃
26	11/28	超音波検査 2	音響インピーダンス, エコーレベル, エラストグラフィ	E-1-2) / 総VI-2	〃
27	12/5	防護	医療被曝, 職業被曝, 公衆被曝, ガイダンスレベル	E-1-2) / 総VI-2	〃
28	12/5	核医学検査	単光子放出型CT, 陽電子放出型断層撮影(PET)ほか	E-1-2) / 総VI-2	〃
29	12/12	画像情報システム	DICOM, PACS, 画像情報システム病院情報システム	E-1-2) / 総VI-2	〃
30	12/12	放射線治療	放射線治療の概要, 外部照射, 組織内照射放射線治療の副作用	E-2-4) / 総VI-7	〃

高齢者歯科学 I (後期・1単位)

科目責任者：鈴木 史彦 (麻醉・准教授)

科目担当者：①鈴木 史彦 (麻醉)，②本間 達也 (客員)，
③阪口 英夫 (非常勤)

1. 科目の概要

現在の日本は高齢化率26.7%の超高齢社となった。超高齢社会の問題点の一つは有病・要介護高齢者の増加である。高齢者特有の身体的・心理的特徴を考慮した口腔疾患や摂食嚥下障害への対応が必須である。また、医療・介護の多職種連携についても理解しなければならない。高齢者歯科学 I では高齢者の特徴を理解するとともに、要介護の原因疾患を学習することで、通院が困難な要介護高齢者の在宅歯科医療や訪問歯科診療に必要な基本的知識を学習していく。本科目は高齢者歯科学の総論に位置するものである。各論として、4年後期に高齢者歯科学 II で摂食嚥下リハビリテーションを学習する。

2. 一般目標

高齢者歯科診療を安全に実施するために必要な知識と診断能力を習得する。

3. 到達目標

- 1) 老化の身体的、精神的および心理的特徴を説明する。
- 2) 老化に伴う口腔諸組織の構造と機能の変化を説明する。
- 3) 高齢者に多く見られる口腔疾患を説明する。
- 4) 高齢者における口腔ケア処置について説明する。
- 5) 口腔機能向上による介護予防について説明する。
- 6) 高齢者の歯科治療時の安全管理を説明する。
- 7) 要介護高齢者の歯科治療時の注意点を説明する。
- 8) 高齢者の歯科治療で注意すべき全身疾患を説明する。
- 9) 歯科訪問診療について説明する。
- 10) 急性期・慢性期・終末期での歯科の役割を説明する。

4. 履修の進め方

講義形式でスライドと資料を使用して履修する。

5. 履修の準備 (参考書)

一般的な身体的特徴を理解していないと、老化の身体的特徴の理解は難しい。本科目の履修準備として生物学と口腔生理学の内容を復習しておくこと。

本科目で履修する内容のうち、他分野と関係が深い科目は次の通りである。高齢者で多くみられる全身疾患：総合医学、口腔粘膜疾患：口腔外科学、介護保険：口腔衛生学、チーム医療：チーム医療学、高齢者で高頻度となる歯科治療：有床義歯学 I・II、保存修復学 I・II、歯内療法学、歯周病学。

講義直後は配布資料について復習しておくこと。理解が不十分な項目については担当教員に質問すること。

参考書：高齢者歯科ガイドブック 医歯薬出版

6. 評価方法

論述試験を80点と客観試験を20点とし、65点以上を合格とする。

7. 教本

老年歯科医学 医歯薬出版

8. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/7	全身の加齢変化	身体・精神・心理の加齢変化	E-5-1) / 必6-エ	①
2	9/14	口腔の加齢変化	顎・口腔・嚥下機能の加齢変化	E-5-1) / 必6-エ	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
3	9/14	要介護の原因疾患1	脳血管疾患	E-5-1) / 総VII-1-エ	①
4	9/28	要介護の原因疾患2	認知症	E-5-1) / 総VII-1-エ	〃
5	9/28	要介護の原因疾患3	神経筋疾患等	E-5-1) / 総VII-1-エ	〃
6	10/12	高齢者に多い口腔疾患	歯および歯周病, 歯の欠損, 軟組織・硬組織に関連する疾患	E-5-1) / 総III-2-ア, イ	〃
7	10/12	介護予防	要介保険, 地域包括ケアシステム	B-2-2) / 必2-イ	〃
8	10/26	チーム医療	チーム医療, 多職種連携	A-5-1) / 必3-ア, イ	②
9	10/26	治療の場	在宅, 施設	E-5-1) / 必1-エ	〃
10	11/9	歯科訪問診療	歯科訪問診療の基本, 器具・器材, 実際	E-5-1) / 各V-8-ア	③
11	11/9	各ステージでの歯科の役割	急性期, 回復期, 終末期	E-5-1) / 総VII-1-ウ	〃
12	11/30	診療環境	治療体制, 安全対策, 感染予防	E-5-1) / 必12-ウ, エ	①
13	11/30	口腔機能管理1	口腔機能, 味覚障害, ドライマウス	E-5-1) / 総IV-2-ケ	〃
14	12/14	口腔機能管理2	口腔ケアと肺炎予防	E-5-1) / 必4-エ	〃
15	12/14	全身管理	高齢者の歯科治療にあたって注意すべき全身疾患	E-5-1) / 総V-6-ア	〃

法歯学（後期・1単位）

科目責任者：花岡 洋一（法歯・教授）

科目担当者：①花岡 洋一（法歯）、②板橋 仁（矯正）

1. 科目の概要

法医学・法歯学は、応用医・歯学における社会医歯学の一分野として位置づけられ、特に法歯学は「歯科医学の知識を応用し、法律上、裁判上必要な歯科領域の証拠を検査・処理し、正当な評価を行い提示することを最終的な目的とした学問」である。

近年歯科医師には、口腔領域を中心とした顎顔面領域の健康管理だけではなく、歯科医学の知識を応用して社会の必要性に応えるべく、新たな役割が求められている。講義では、その一翼を担う法医学・法歯学の基礎および臨床的内容について理解する。

2. 一般目標

本学デュプロマポリシーの1～5、7における社会に貢献できる歯科医師となるため、法医学・法歯学の基礎的知識を身につけ、社会における歯科医の役割を理解する。

3. 到達目標

- 1) 法医学・法歯学の基礎的知識とその応用方法を説明する。
- 2) 社会における歯科医師の役割を説明する。
- 3) 大規模災害時における歯科医師の役割を説明する。

4. 履修の進め方

講義形式でスライドと資料を使用して履修する。

5. 履修の準備（参考書）

口腔解剖学の用語や社会歯科学における関係法規、口腔衛生学における歯科医師の役割を事前に把握する、法医学・法歯学は総合学問であるため歯科医師として社会に出た後に極めて有用な役割を果たす。講義時間内に理解し記憶することが重要である。

6. 評価方法

定期試験により評価し、これに講義内における質問への解答を加点する。

7. 教本

臨床法医学テキスト：佐藤喜一編著：中外医学社

8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/5	総論	法医学・法歯学の定義と歴史	A-1-3)	①
2	9/12	法医学総論	法医学・法歯学における解剖用語と対象	A-1-3)C-3-1)／総Ⅱ-5-ア	〃
3	9/19	法医学各論1	死因究明制度と死体解剖	A-1-3)／総Ⅰ-3-ア	〃
4	9/26	法医学各論2	死体現象	B-2-3)C-5-7)／総Ⅰ-3-ア	〃
5	10/3	法医学各論3	血液型	B-2-3)C-3-4)／総Ⅰ-3-ア総Ⅵ-3-ア	〃
6	10/10	法医学各論4	物体検査・創傷	B-2-3)E-6)／必12-キ総Ⅰ-3-ア	〃
7	10/17	法医学各論5	DNA型	C-2-2)C-5-1)／必5-ア総Ⅵ-3-ア	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
8	10/24	法歯学総論	歯科医と法律	A-1-3)A-6-2)B-2-1)／必2-イ, オ, キ, コ	①
9	10/31	法歯学各論1	歯科的個人識別—歯から何がわかるのか?—	B-2-3)／総Ⅰ-3-ア	〃
10	11/7	法歯学各論2	性別判定	B-2-3)C-3-2)C-3-4)／総Ⅰ-3-ア, 総Ⅱ-1-カ	〃
11	11/14	法歯学各論3	年齢推定	B-2-3), C-3-3)E-2-3)／必6-イ, 総Ⅰ-3-ア, V1-ク V-6-ア	〃
12	11/21	法歯学各論4	年齢推定／大規模災害	A-7-1), B-2-2), B-2-3)／総Ⅰ-1-エ, 総Ⅰ-3-ア	〃
13	11/28	社会と歯科の関わり1	大規模災害時における歯科医の役割1	A-7-1), B-2-2), B-2-3)／総Ⅰ-1-エ, 総Ⅰ-3-ア	〃
14	12/5	社会と歯科の関わり2	大規模災害時における歯科医の役割2	A-7-1), B-2-2), B-2-3)／総Ⅰ-1-エ, 総Ⅰ-3-ア	① ②
15	12/12	社会と歯科の関わり3	虐待防止	B-2-2)／総Ⅰ-2-ア	①

総合臨床医学（後期・2単位）

科目責任者：馬場 優（医学・教授）

科目担当者：①馬場 優（医学）、②鶴木 隆（客員）

1. 科目の概要

顔面・顎・口腔外科、歯科を専門分野とする歯科医師にとって、医学（内科・外科・耳鼻咽喉科）を学習することは必須である。なぜなら、学問では歯学、医学と分かれているが、患者に対しては歯科と医科の総合的治療が行われなければならないからである。総合医学担当の馬場は医師免許、鶴木隆教授は医師と歯科医師の両免許を持ち、総合医療を実践してきた。この立場、経験で歯学部学生にとって必要な内容の講義を行う。

2. 一般目標

臨床歯学の土台となる内科学・外科学・耳鼻咽喉科学の内容を概観し、病の病態、診断、治療に関する知識を習得する。

3. 到達目標

- 1) 医の倫理について説明できる
- 2) インフォームド・コンセントについて説明できる
- 3) 医療安全の意義について説明できる
- 4) 主要な症候と対処法について列挙できる
- 5) 疾患の診断と治療について説明できる

4. 履修の進め方

講義形式でスライドと資料を使用して履修する。

5. 履修の準備（参考書）

総合臨床医学は、人間性豊かな優れた医療人を輩出するにあたって必須な科目であり、総合臨床医学を履修する前に歯科医療人間学、医療倫理学の内容を知っておくべきである。指定の参考書：なし、事前学習・事後学習（各々15分）

6. 評価方法

定期試験で評価する。

評価基準：65点以上を合格とする。追・再試験は各々1回のみとする。追・再試験において65点以上を合格とする。

なお追々試験および再々試験は行わない。

試験方法：マークシート40問

範囲：講義内容

7. 教本

水野嘉夫「歯科医師が知っておくべき全身疾患」一世出版
吉野肇一「外科学」医学書院

8. 授業内容と日程

（コ：コアカリ記号、国：国家試験出題基準、担：担当教員）

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	9/7	総論1	歯学部学生がなぜ医学を学習するのか	E-6/総VII -1-エ	②
2	9/14	総論2	病歴および現症の取り方・口腔のケア	E-6/総VII -1-エ	〃
3	9/21	総論3	内科学総論、腫瘍学総論	E-6/総VII -1-エ	①
4	9/28	代謝性疾患	糖尿病、肥満、痛風、骨粗鬆症、高脂血症	E-6/総VII -1-エ	〃
5	10/5	消化器疾患1	消化器疾患、肝機能障害	E-6/総VII -1-エ	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
6	10/12	消化器疾患2	歯科治療中に起こる誤嚥・誤飲事故、口腔衛生と全身疾患	E-6/総VII -1-エ	①
7	10/19	院内感染、外科総論	院内感染、AIDS、外科総論	E-6/総VII -1-エ	〃
8	10/26	内分泌・救急	内分泌疾患、救急医療、バイタルサイン	E-6/総VII -1-エ	〃
9	11/2	呼吸器・脳疾患	呼吸器疾患、脳神経・血管障害	E-6/総VII -1-エ	〃
10	11/9	血液・腎臓	血液疾患・腎疾患	E-6/総VII -1-エ	〃
11	11/16	アレルギー・膠原病	アレルギー性疾患・リウマチ性疾患	E-6/総VII -1-エ	〃
12	11/30	循環器・歯科心身症	循環器疾患・歯科心身症	E-6/総VII -1-エ	〃
13	12/7	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科学	E-6/総VII -1-エ	〃
14	12/14	頭頸部外科	頭頸部外科学	E-6/総VII -1-エ	〃
15	12/21	禁煙	タバコ：歯科医師は喫煙してはならない。なぜか？	E-6/総VII -1-エ	②

総合演習3D (通年)

科目責任者：前田 豊信 (生化・准教授)

科目担当者：①宇佐美晶信 (解剖), ②渡邊 弘樹 (組織),
 ③大須賀謙二 (生理), ④前田 豊信 (生化),
 ⑤清浦 有祐 (感染), ⑥廣瀬 公治 (衛生),
 ⑦鈴木 恵子 (薬理), ⑧長岡 正博 (薬理),
 ⑨岡田 英俊 (材料), ⑩伊東 博司 (病理),
 ⑪櫻井 裕子 (病理), ⑫川原 一郎 (外科),
 ⑬金 秀樹 (外科), ⑭瀬川 洋 (衛生),
 ⑮馬場 優 (医学), ⑯高田 訓 (外科),
 ⑰菊井 徹哉 (修復), ⑱山田 嘉重 (修復),
 ⑲関根 秀志 (イン), ⑳山森 徹雄 (有床),
 ㉑鈴木 史彦 (外科), ㉒原田 卓哉 (放射),
 ㉓加藤 靖正 (生化), ㉔安部 仁晴 (組織),
 ㉕鈴木 礼子 (薬理), ㉖遊佐 淳子 (病理),
 ㉗大橋 明石 (衛生), ㉘御代田 駿 (外科),
 ㉙小嶋 忠之 (外科), ㉚花岡 洋一 (法歯),
 ㉛古山 昭 (生理), ㉜板橋 仁 (矯正)

1. 科目の概要

臨床実習開始前までに習得すべき歯科医学的知識を理解することを目的として、三学年に履修する科目を中心に、総合的な知識の確認を行う。

2. 一般目標

歯学部における専門科目を十分理解するために、その基礎となる知識の習得を目指す。

3. 到達目標

- 1) 人体の正常な形態とその機能を説明できる。
- 2) 感染と生体防御のメカニズムについて説明できる。
- 3) 病変の特徴と成因および治療法について説明できる。
- 4) 全身疾患と口腔病変について説明が出来る。
- 5) 薬物の体内動態と特徴について説明できる。
- 6) 歯科材料とその特徴について説明できる。
- 7) 健康増進, 疾病予防と保健活動について説明が出来る。
- 8) クラウンブリッジ補綴と全部床義歯補綴について説明が出来る。
- 9) 保存修復について概略が説明できる。
- 10) 歯科医療における放射線の取り扱いに必要な知識が説明できる。
- 11) 高齢者の特徴と治療上の留意点が説明できる。

4. 履修の進め方

問題演習を主体として、適宜、プリントやスライドを用いた視覚的素材を活用しながら進めていく。

5. 履修の準備 (参考書)

各科目に準ずる。

6. 評価方法

総合試験で評価する。80%以上の出席がなければ総合試験の受験資格を失う。

7. 教本

各科目指定の教本に準ずる。

8. 授業内容と日程

(コ：コアカリ記号, 国：国家試験出題基準, 担：担当教員)

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
1	7/9	総合演習	口腔解剖学	E-3-1) / 総II-5-ア	①
2	7/9	総合演習	解剖学	C-3-1, 4 / 必5-ア-e	〃

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
3	7/9	総合演習	口腔組織学	C-2-3), -3-4) / 必5-ア 総II1ア-ク	②
4	7/9	総合演習	口腔生理学	C-2-3) / 必6-ア, 総III-2	③
5	11/12	総合演習	口腔生化学	C-2-3)-(1) ⑦ / 総III-2-ケ	④
6	11/12	総合演習	口腔感染免疫学	C4-1)-① / 総III-1-カ-a, b	⑤
7	11/12	総合演習	口腔感染免疫学	C4-2)-①, ②, ③ / 総II-3-ウ, エ	〃
8	11/12	総合演習	社会歯科学	B-2-1, 2) / 必2-イ	⑥
9	11/19	総合演習	歯科薬理学	C-6 / 必12-コ, 総VII-8	⑦
10	11/19	総合演習	歯科薬理学	C-6 / 必12-コ, 総VII-8	⑧
11	11/19	総合演習	生体材料・歯科材料学	D-1, 2 / 総XI-1~7	⑨
12	11/19	総合演習	生体材料・歯科材料学	D-1, 2 / 総XI-8~16	〃
13	11/26	総合演習	口腔病理学	C-5-6) / 総III1-ク	⑩
14	11/26	総合演習	口腔病理学	E-3-2) / 各II3-ア	⑪
15	11/26	総合演習	口腔衛生学	B-4-1, 2 / 総I-6	⑥
16	11/26	総合演習	口腔衛生学	B-4-1, 2 / 総I-6	〃
17	12/3	総合演習	口腔外科学	コ：E-2-4)-(9) ① 国：各論IV-16-カ	⑫
18	12/3	総合演習	口腔外科学	コ：E-2-4)-(3) ①~⑨ 国：各論IV-3-ア~オ	⑬
19	12/3	総合演習	歯科医療管理学	A-5-1~3) / 必4-イ, エ	⑭
20	12/3	総合演習	総合臨床医学	E-6 / 総VII-1-エ	⑮
21	12/10	総合演習	口腔内科学	E-2 / 必, 総IV, VI, VIII, IX, X	⑯
22	12/10	総合演習	口腔内科学	E-2 / 必, 総IV, VI, VIII, IX, X	〃
23	12/10	総合演習	保存修復学	E-3 / 各II-1, 必-8 / 総VIII-5, 9	⑰

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
24	12/10	総合演習	保存修復学	E-3/各Ⅱ-1, 必-8/総Ⅷ-5, 9	⑮
25	12/17	総合演習	冠橋義歯学	E-3-4)-(1) ①~⑬/各Ⅳ-3ア~ウ	⑲
26	12/17	総合演習	有床義歯学	E-3-4)-(2) ⑫/各論Ⅳ-5-ア~ウ	⑳
27	12/17	総合演習	高齢者歯科学	E-5-1)/各Ⅴ-1-ア~8-イ	㉑
28	12/17	総合演習	歯科放射線学	E-1-2)/総Ⅸ-2-ア~カ, 総Ⅸ-2-ク~ツ	㉒
29	2/6	対策期間①	口腔生理学	C-2-3)/必6-ア, 総Ⅲ-2	③
30	2/6	対策期間①	解剖学・口腔解剖学	C-3-1, 4, E-3-1)/必5-ア-e, 総Ⅱ-5-ア	①
31	2/6	対策期間①	口腔組織学	C-3-2)E-2, 3/必5, 6 総Ⅱ5, 9	④
32	2/6	対策期間①	口腔生化学	C-1-4)③/必6-ア-c, 必9-ウ-i	⑬
33	2/6	対策期間①	口腔感染免疫学	C4-1)-②, ③/総Ⅲ-1-カ-b, c	⑤
34	2/6	対策期間①	歯科薬理学	C-6/必12-コ, 総Ⅶ-8	⑮
35	2/6	対策期間①	生体材料・歯科材料学	D-1, 2/総Ⅺ-1~16	⑨
36	2/7	対策期間①	口腔病理学	E-2-4)/各Ⅲ1-エ, オ	⑮
37	2/7	対策期間①	口腔衛生学	B-3-2)/必4-ウ	⑮
38	2/7	対策期間①	歯科医療管理学	A-3-①②④/総Ⅰ-3)	⑭
39	2/7	対策期間①	社会歯科学	B-2-1, 2)/必2-イ	⑥
40	2/7	対策期間①	口腔外科学	コ:E-2-4)-(2)① 国:各論Ⅳ-8-ア~ケ	⑮
41	2/7	対策期間①	口腔内科学	E-2/必, 総Ⅳ, Ⅵ, Ⅷ, Ⅸ, Ⅹ	⑮
42	2/7	対策期間①	保存修復学	E-3/各Ⅱ-1, 必-8/総Ⅷ-5, 9	⑮
43	2/8	対策期間①	冠橋義歯学	E-3-4)-(1) ①~⑬/各Ⅳ-3ア~ウ	⑲
44	2/8	対策期間①	有床義歯学	E-3-4)-(2) ⑫/各論Ⅳ-5-ア~ウ	⑳

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
45	2/8	対策期間①	高齢者歯科学	E-5-1)/各Ⅴ-1-ア~8-イ	㉑
46	2/8	対策期間①	歯科放射線学	E-1-2)/総Ⅸ-2-ア~カ, 総Ⅸ-2-ク~ツ	㉒
47	2/8	対策期間①	総合臨床医学	E-6/総Ⅶ-1-エ	⑮
48	2/8	対策期間①	法歯学	B-2-3)/総Ⅰ-3-ア	㉒
49	2/8	対策期間①	口腔生化学	C-2-3)-(1) ⑦/総Ⅲ-2-ケ	④
50	2/25	対策期間②	口腔生化学	C-1-1/必6-ア/総Ⅲ-Ⅰ-ア	㉒
51	2/25	対策期間②	解剖学・口腔解剖学	C-3-1, 4, E-3-1)/必5-ア-e, 総Ⅱ-5-ア	①
52	2/25	対策期間②	口腔組織学	C-2, 3 E-2, 3/必5, 6 総Ⅱ1, 5, 9	②
53	2/25	対策期間②	口腔生理学	C-2-3)/必6-ア, イ, 総Ⅲ-1, 2, Ⅳ-2	⑮
54	2/26	対策期間②	口腔感染免疫学	C4-2)-⑤, ⑥/総Ⅲ-1-キ-c, d	⑤
55	2/26	対策期間②	歯科薬理学	C-6/必12-コ, 総Ⅶ-8	⑦
56	2/26	対策期間②	生体材料・歯科材料学	D-1, 2/総Ⅺ-1~16	⑨
57	2/26	対策期間②	口腔病理学	C-5-5)/総Ⅲ-1-オ	⑮
58	2/27	対策期間②	口腔衛生学	B-4-2)/総論Ⅰ-6	⑮
59	2/27	対策期間②	歯科医療管理学	E-1-6)/必-3-ク	⑭
60	2/27	対策期間②	社会歯科学	B-2-1, 2)/必2-イ	⑥
61	2/27	対策期間②	口腔外科学	コ:E-2-4)-(9)⑤ 国:各論Ⅳ-15-ア~ヌ	⑮
62	2/28	対策期間②	口腔内科学	E-2/必, 総Ⅳ, Ⅵ, Ⅷ, Ⅸ, Ⅹ	⑮
63	2/28	対策期間②	保存修復学	E-3/各Ⅱ-1, 必-8/総Ⅷ-5, 9	⑮
64	2/28	対策期間②	冠橋義歯学	E-3-4)-(1) ①~⑬/各Ⅳ-3ア~ウ	⑲
65	2/28	対策期間②	有床義歯学	E-3-4)-(2) ⑫/各論Ⅳ-5-ア~ウ	⑳

	月日	タイトル	授業内容	コ/国	担
66	3 / 1	対策期間②	高齢者歯科学	E-5-1) / 各 V-1-ア～8- イ	⑳
67	3 / 1	対策期間②	歯科放射線学	E-1-2) / 総 IX-2-ア～カ, 総 IX-2-ク～ ツ	㉑
68	3 / 1	対策期間②	総合臨床医学	E-6 / 総VI -1-エ	㉒
69	3 / 1	対策期間②	法歯学	B-2-3) / 総 I-3-ア	㉓